

三納ニショサ遺跡 (第3・5次調査)

2009

石川県野々市町教育委員会
野々市町中南部土地区画整理組合

さん の う
三納ニシヨサ遺跡(第3・5次調査)

2 0 0 9

の の いち
石川県野々市町教育委員会
野々市町中南部土地区画整理組合



三納ニシヨサ遺跡第3次調査全景(南から)



三納ニシヨサ遺跡第5次調査全景(北から、調査区左側は第6次調査区)



和鏡出土狀況



和 鏡

例　　言

- 1 本書は、三納ニシヨサ遺跡(第3・5次)埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は、石川県石川郡野々市町字三納地内である。
- 3 調査原因は野々市町中南部土地区画整理事業にともなうものである。
- 4 調査にかかる費用は、野々市町中南部土地区画整理組合が負担した。
- 5 調査は、野々市町中南部土地区画整理組合からの依頼を受けて野々市町教育委員会が実施した。
- 6 現地調査は、平成14・15年度に実施した。遺跡名・面積・期間・担当者は下記のとおりである。

平成14年度	三納ニシヨサ遺跡(第3次)	面 積	5,300m ²
期 間	平成14年4月8日～平成14年10月25日		
担当者	布尾和史 野々市町教育委員会文化課 主事 永野勝章 野々市町教育委員会文化課 主事		
- 7 出土品整理は平成15・16・20年度に野々市町教育委員会が実施した。
- 8 報告書の刊行は平成20年度に野々市町教育委員会文化振興課が実施した。編集・執筆は永野勝章(野々市町教育委員会文化振興課 主査)が行った。
- 9 現地調査から出土品整理、報告書刊行に至るまでは地元の方々をはじめとして下記の機関、個人の協力を得た。(五十音順、敬称略)
垣内光次郎、布尾和史、布尾幸恵、藤澤良祐、(財)石川県埋蔵文化財センター、野々市町中南部土地区画整理組合、野々市町都市計画課
- 10 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1) 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標標第Ⅷ系に準拠している。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T. P. (東京湾平均海面標高)による。
 - (3) 出土遺物番号は、遺跡ごとに本文・観察表・挿図・写真で対応する。
 - (4) 挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
- 11 調査に関する記録と出土遺物は、野々市町教育委員会が一括して保管・管理している。

目 次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査の経過	1
第2節 発掘作業の経過	2
第3節 整理作業の経過	2
第4節 調査体制	2
第2章 調査の方法と成果	3
第1節 調査の方法	3
第2節 遺跡の概要	4
第3節 基本層序	4
第4節 遺構	5
第5節 遺物	9
第3章 総括	10
遺物観察表	12
図面図版 遺構・遺物実測図	14
写真図版	45

挿図目次

第1図 年次別調査区位置図	1	第17図 造構実測図SN(3)25・134・153・557・592・ 137・212(1/40・1/160)	28
第2図 A区北壁上層断面図	4	第18図 造構実測図SN(3)570・601(1/80)	29
第3図 調査区図・グリッド図(1/1000)	14	第19図 造構実測図SN(3)60・102・118・129 (1/40)	30
第4図 造構実測図SN(3)31・52・竖穴建物SN(3)① (1/40)	15	第20図 造構実測図河道SN・鞍部SN(3)(1/40)	31
第5図 造構実測図掘立柱建物SN(3)①・② (1/80)	16	第21図 遺物実測図(1)(1/2、1/3、1/6)	32
第6図 造構実測図掘立柱建物SN(3)③(1/80)	17	第22図 遺物実測図(2)(1/3、1/6)	33
第7図 造構実測図SN(3)35・121・122(1/40)	18	第23図 遺物実測図(3)(1/3)	34
第8図 造構実測図SN(3)403・405(1/40)	19	第24図 遺物実測図(4)(1/2、1/3)	35
第9図 造構実測図SN(3)492(1/40)	20	第25図 遺物実測図(5)(1/3)	36
第10図 造構実測図SN(3)600・32(1/40)	21	第26図 遺物実測図(6)(1/3)	37
第11図 造構実測図SN(3)33・34・38(1/40)	22	第27図 遺物実測図(7)(1/3)	38
第12図 造構実測図SN(3)51・73・239・257(1/40)	23	第28図 遺物実測図(8)(1/3)	39
第13図 造構実測図SN(3)401・404(1/80、1/40)	24	第29図 遺物実測図(9)(1/3、1/6)	40
第14図 造構実測図SN(3)446・456・484・498(1/40)	25	第30図 遺物実測図(10)(1/3、1/6)	41
第15図 造構実測図SN(3)516・521・554・572(1/40)	26	第31図 遺物実測図(11)(1/3)	42
第16図 造構実測図SN(3)599・SN(5)112(1/40)	27	第32図 遺物実測図(12)(1/3)	43

第1章 調査の経過

第1節 調査の経過

本書に収録する三納ニシヨサ遺跡第3・5次調査は野々市町中南部土地区画整理事業に伴うものである。この事業にかかる埋蔵文化財分布調査、発見された埋蔵文化財包蔵地に対する取扱い、法令手続きについては「野々市町中南部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書1 粟田遺跡(第10次調査)・三納アラミヤ遺跡(第1・2次調査)・三納トヘイダゴシ遺跡(第1・3次調査)」を参照されたい。

三納ニシヨサ遺跡第3次調査は平成14年に5,300m²を対象として行われた。平成14年3月28日付で野々市町中南部土地区画整理組合から野々市町に埋蔵文化財発掘調査の依頼が提出され、4月1日、町と組合との間で委託契約を取り交わしている。発掘調査承諾書は平成14年4月1日付で野々市町中南部土地区画整理組合理事長から野々市町教育委員会教育長あてに出され、これを受け、埋蔵文化財保護法第58条の2第1項に基づき、平成14年4月1日付教文第8号により野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会に報告した。現地調査は平成14年4月8日～同年10月25日にかけて実施、中世の集落遺跡であることが確認された。

三納ニシヨサ遺跡5次調査は平成15年度に1,800m²を対象として行われた。平成15年3月28日に発掘調査の依頼が提出され、4月1日、町と組合との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結された。発掘調査承諾書は4月1日付で野々市町中南部土地区画整理事長から提出された。埋蔵文化財保護法第99条の第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査報告は、平成15年4月1日付教文第4号で野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会に報告した。現地調査は平成15年4月4日～同年7月9日にかけて実施した。



第1図 年次別調査区位置図

第2節 発掘作業の経過

三納ニシヨサ遺跡(第3次調査・平成14年度)	9月5日 表土除去開始(D区)
4月10日 表土除去開始(B区)	9月26日 D区調査
4月18日 作業員による調査開始	10月17日 第2回航測
5月15日 1号掘立柱建物掘削	10月18日 調査終了
5月21日 2号掘立柱建物掘削	三納ニシヨサ遺跡(第5次調査・平成15年度)
5月22日 表土除去開始(C区)	4月7日 表土除去開始
6月11日 C区調査を開始	4月16日 作業員による調査開始、遺構検出
6月26日 第1回航測(B区南側・C区)	4月22日 SN(5)112より州浜菊花双鳥鏡出土
6月27日 表土除去開始(A区)	5月19日 遺構掘削終了
7月4日 A区調査開始	7月2日 航測
7月31日 SN(3)121・122完掘	7月9日 調査終了
8月8日 SN(3)239より錢貨7枚出土	

第3節 整理作業・報告書作成

整理作業は、平成15・16・20年度にわたって行った。

平成15年度は三納ニシヨサ遺跡(第3次)出土遺物の洗浄・記名・実測を行った。

平成16年度は三納ニシヨサ遺跡(第5次)出土遺物の洗浄・記名・実測を行った。

平成20年度は発掘調査報告書作成のための図版作成・本文執筆・遺物写真撮影を行った。

第4節 調査体制

三納ニシヨサ遺跡(第3次)

調査主体 野々市町教育委員会(教育長 田村昌俊)

担当課 野々市町教育委員会 文化課(課長 高木 実)

調査期間 平成14年4月8日～同年10月25日

対象面積 5,300m²

調査担当 布尾和史(野々市町教育委員会文化課 主事 県教育委員会文化財課より派遣)

水野勝章(野々市町教育委員会文化課 主事)

三納ニシヨサ遺跡(第5次)

調査主体 野々市町教育委員会(教育長 田村昌俊)

担当課 野々市町教育委員会 文化課(課長 中川保夫)

調査期間 平成15年4月4日～同年7月9日

対象面積 1,800m²

調査担当 永野勝章

整理・報告書作成作業(平成15・16・20年度)

担当 当 永野勝章

大杉幸江・竹山倫子・野村祥子・長谷川啓子・増山明美

(野々市町教育委員会 臨時職員)

第2章 調査の成果

第1節 調査と報告の方法

三納ニショサ遺跡は平成10年に野々市町中南部土地区画整理事業に先立って実施した分布調査によって発見された遺跡である。

分布調査は事業区域内に平面 1×1 m の試掘坑を225箇所設定し、地表面が確認される深度まで掘削、平面および土層断面の観察を行った。その結果字三納の通称「ニショサ」と呼ばれる農地一帯から遺構や中世を中心とした遺物が検出されたため、三納ニショサ遺跡と命名した。

区画整理事業に伴う発掘調査は平成12年度から平成16年度までに第1～7次の7次にわたって実施された。本書では民部分地を対象として実施したうちの第3・5次調査について報告を行う。

発掘調査では、公共座標に基づく 10×10 m のグリッドを設定し、南西隅の杭番号でその区画を呼称した。遺構の掘削は、基本的に遺構を半裁して断面の観察を行って土色や堆積状況を観察し、必要に応じて写真や図面による記録保存を行った。

報告にあたっては、調査区が各年次や、築造道路の線形などによっていくつかに分かることから第3図のように便宜上A～E区と呼称しグリッド番号と併せて記載した。個々の遺構の名称は各遺構番号の前に三納ニショサ遺跡を示すSNと(3)、(5)といった調査年次を組み合わせ、それぞれ三納ニショサ遺跡(第3次)：SN(3)、(第5次)：SN(5)とする。個々の遺構の名称は時代・種類・グリッドに関係なく調査年次ごとに1から通じて調査番号を付けている。

遺構の説明は本文・図面図版・写真図版を用いる。遺構の種類にはピット・建物跡・溝・土坑・旧河川・流路などがあり、これらについて位置・分類・規模・形状・覆土の堆積状況・出土遺物・重複とその前後関係などを記述した。

遺物の総数は、パンケースで、第3次調査17箱、第5次調査1箱である。この中から遺構出土のものを中心に、残りの良いものや出土例の少ないものを選択して図化した。

遺物図版作成にあたっては遺構毎にレイアウトした。遺物図版の縮尺は原則 $1/3$ とし、石製品など大型のものは $1/6$ で掲載した。

遺物の記述は、本文・観察表・図面図版・写真図版でおこなった。遺物の報告番号は遺跡単位に1から付与し、本文・観察表・図面図版・写真図版で共通する。

観察表は遺物の種類によって観察項目は異なるが、煩雑を避けるため表は統一の形式を取り、そのつど、外面色調：外、内面色調：内、褐色もしくは釉の種類：釉、と付して区別した。

縄文土器の型式名は『野々市町史 資料編』[吉田2003]で使用しているものを用いた。

中世の土器・陶磁器は、名称・時期とともに土師器が藤田邦雄[藤田1997]、珠洲焼が吉岡康暢[吉岡1994]、瀬戸美濃が藤澤良祐[藤澤1991]、輸入青磁は上田秀夫[上田1982]、青花は小野正敏[小野1982]に準じた。

近世陶磁器は大半が肥前陶磁器で、[九州近世陶磁学会2000、2001]に準じている。

参考文献

石川考古学研究会・北陸古代土器研究会 1988 「シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題」

- 上田秀夫 1982 「14~16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』2 日本貿易陶磁研究会
 小野正敏 1982 「15~16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』2 日本貿易陶磁研究会
 九州近世陶磁学会 2000 「九州陶磁の編年」
 野々市町史編纂専門委員会 2003 「野々市町史 資料編Ⅰ」 野々市町
 藤澤良祐 1991 「瀬戸古窯址群Ⅱ - 古瀬戸後期様式の編年」瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要X 瀬戸市歴史民俗資料館
 藤田邦雄 1997 「第2節 中世加賀国の中世土器様相」『中・近世の北陸』北陸中世土器研究会 桂書房
 吉岡重暢 1994 「中世須恵器の研究」吉川弘文館

第2節 遺跡の概要

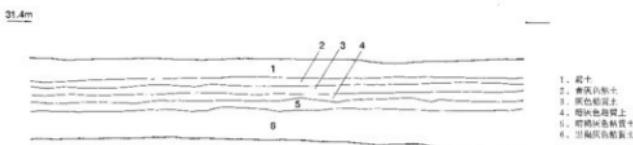
三納ニショサ遺跡第3・5次調査区は中世を主体とし、他に縄文時代と近世の遺物が若干出土している。以下時代ごとにその概要を述べる。

縄文・弥生時代はピットや土坑が検出された。遺構・遺物ともに少ないが粗製の深鉢だけではなく酒見式の注口土器などが出土している。また打製石斧の出土がやや目立つ。

中世は穂原の広がる調査区南側を中心に竪穴状遺構・掘立柱建物・土坑などが検出された。出土遺物から主体となる時期は13~14世紀と15~16世紀の2時期に分けられる。遺物は土師器皿・珠洲・加賀・越前・瀬戸・中国製陶磁や行火・五輪塔・砥石など石製品が出土している。一方調査区北側は良好な黄色土の地山だが、全般的に遺構密度が低く建物跡は検出されていない。調査区北西部分はかつての谷地形であり、谷が埋まった後に作られた数条の溝以外には遺構はほとんどない。

第3節 基本層序(第2図)

三納ニショサ遺跡の上層は遺跡の中心部と考えられるC区東側では、基本的に上層から耕土・青灰色粘土・灰色粘質土・暗灰色粘質土・暗褐色粘質土・黒褐灰色粘質土となっている。このうち灰色粘質土は近世、暗灰色・黒褐灰色粘質土は中世の覆土で、黒褐灰色粘質土は大小の礫を含んでいる。また、遺跡の縁辺部と考えられるD区の東側では上層から耕土・床上・灰黄色粘質土・灰色粘質土・暗褐色粘質土となっている。暗褐色粘質土は古代以前である。



第2図 C区北壁土層断面図 (1/40)

第4節 遺構

(1) 古代以前の遺構

a) 土坑

SN(3)31(第4図)

A区D4グリッドに位置する。平面形は不整形で、径420×240cm、深さは18cmを測る。覆土は薄黄褐色粘質土・明褐色粘質土を主とする。酒見式の注口上器(1~8)が出土している。

b) ピット

SN(3)52(第4図)

C区K11グリッドに位置する。平面形は梢円形で、径79×59cm、深さは10cmを測る。覆土は黒褐色土である。出土遺物は打製石斧(9)である。

c) 竪穴建物

SN(3)竪穴I(第4図)

A区C4グリッドに位置する。平面形はやや歪な方形で、338×317cm、深さは12cmを測る。壁の立ち上がりは緩やかである。覆土は暗褐色粘質土・明褐色粘質土で大小の礫を含む。貼床及びカマドは見つかっていない。建物内には柱穴と思われる3つのピットがあり、深さは床面から10cm前後である。出土遺物は全くなく、時期は特定できない。

(2) 中世の遺構

a) 掘立柱建物

三納ニヨサ遺跡(3・5次)では3棟の掘立柱建物を検出している。いずれも遺跡の南側に分布しており、多数の竪穴状遺構・土坑と共に当遺跡の中心をなすものである。

1号掘立柱建物SN(3)①(第5図)

A区D4グリッドに位置する総柱建物である。建物の規模は2×2間である。平面形は若干歪む。軸はN-14°-Eである。南北4.2m、東西3.2m、柱間距離は南側東西柱列で1.4m・1.8m、東側の南北柱列で2.1m・2.1mを測る。北東の一角は確認できなかった。柱穴は円形ないし梢円形で径30~58cm、深さは26~54cm、覆土は明灰色粘質土・明褐色粘質土を主とする。遺物の出土はなかったが、形状や覆土の土色から中世の遺構と考えられる。

2号掘立柱建物SN(3)②(第5図)

A区D5・6・E5・6グリッドに位置する側柱建物である。一部柱穴の確認できなかったところもあるが、建物の規模は4×2間になると思われる。軸はN-61°-Wである。南北3.6m、東西8.0m、柱間距離は南側東西柱列で2.0m・2.0m・2.0m・2.0m、西側の南北柱列で1.9m・1.7mを測る。柱穴は円形ないし梢円形で径36~90cm、深さは12~42cm、覆土は明灰色粘質土・暗褐色粘質土を主とする。SN(3)20の表面より珠洲片口鉢(45)が出土している。

3号掘立柱建物SN(3)③(第6図)

C区H7・8・I7・8グリッドに位置する4×3間の総柱建物である。軸はN-17°-Eである。南北9.2m、東西6.6m、柱間距離は東側南北柱列で2.2m・2.5m・2.3m・2.2m、北側東西柱列で2.2m・2.1m・2.3mを測る。柱穴は円形を主とし、径44~76cm、深さは16~42cm、覆土は黒褐色粘質土を主とする。遺物の出土はなかったが、形状や覆土の土色から中世の遺構と考えられる。

b) 竪穴状遺構

堅穴状遺構も掘立柱建物同様、三納ニショサ遺跡の中心部と考えられる調査区南側に集中している。特に密集するA区は地山が疊層で、これらの遺構はいずれも疊層を掘り込んで作られている。

SN(3)35(第7図)

A区D 4・5グリッドに位置する。平面形は隅丸方形で、規模は280×250cm、深度60cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、底面は平坦である。東側はテラス状に一段高くなっている。覆土は明灰色粘質土・暗灰色粘質土を主とする。土師器皿の小片が出土している。

SN(3)121(第7図)

C区J 9グリッドに位置し、堅穴状遺構SN(3)122を切っている。平面形は隅丸方形で、規模は340×220cm、深度20cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、底面は平坦である。内部に石列が見られた。覆土は褐灰色土を主とする。土師器皿の小片と、釘と思われる鉄製品が出土している。

SN(3)122(第7図)

C区J 9グリッドに位置し、堅穴状遺構SN(3)122に切られている。平面形は隅丸方形で、規模は220×180cm、深度36cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、底面は平坦である。覆土は暗褐色土を主とする。出土遺物はない。

SN(3)403(第8図)

C区J 8グリッドに位置し、溝SN(3)404を切っている。平面形は隅丸方形で、径210×190cm、深度20cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、底面は平坦である。覆土は褐灰色粘質土・暗褐色粘質土が主である。出土遺物はない。

SN(3)445(第8図)

C区J 6グリッドに位置する。平面形は正な方形で、径360×290cm、深度約10cmを測る。壁の立ち上がりは緩い。底面は平坦である。覆土は暗褐色粘質土が主である。珠洲片口鉢(23)、元豐通宝(24)が出土している。

SN(3)492(第9図)

C区H 5・6グリッドに位置する。平面形は不整形で、複数の堅穴状遺構や土坑が切りあっているようである。径570×440cm、深度約50cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、底面は平坦である。内部に石列がある。覆土は暗褐色粘質土・褐灰色粘質土が主で大小の礫を含む。南東部分を中心に中世土師器皿(25・26)、珠洲片口鉢(27)、行火(28・29)、石製品(30)、炉石(31)などが出土している。

SN(3)600(第10図)

C区I 7グリッドに位置する。平面形は隅丸方形で、径320×270cm、深度約30cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、底面は平坦である。覆土は黒褐色粘質土を主とし、大小の礫を含む。出土遺物はなかった。

c)土坑

SN(3)32(第10図)

A区F 3グリッドに位置する。平面形は不整形で、径440×330cm、深度は最深部で60cmを測る。中央が一段深くなっている。覆土は暗灰色粘土・明灰色粘土で、大小の礫を含む。瀬戸碗(10)が出土している。

SN(3)33(第11図)

A区C 5グリッドに位置する。平面形は隅丸方形で、径160×120cm、深度50cmを測る。覆土は暗灰色粘土・暗褐色粘質土を主とし、大小の礫を含む。土師器皿の小片が出土している。

SN(3)34(第11図)

A区E5グリッドに位置する。平面形は正な楕円形で、径180×120cm、深度30cmを測る。覆土は明灰色粘質土を主とし、大小の礫を含む。土師器皿(11)が出土している。

SN(3)38(第11図)

A区D7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、径350×140cm、深度20cmを測る。覆土は明褐色粘質土・暗褐色土を主とし、大小の礫を含む。土師器皿の小片が出土している。

SN(3)51(第12図)

C区J10グリッドに位置する。平面形は不整形で、径170×160cm、深度50cmを測る。覆土は暗褐色土・黒褐色土を主とする。出土遺物はない。

SN(3)73(第12図)

C区J10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、径140×110cm、深度は最深部で40cmを測る。覆土は暗褐色土を主とする。出土遺物はない。

SN(3)239(第12図)

C区I9グリッドに位置する。平面形は隅丸方形で、一部がピットとカクランによって切られている。径100×85cm、深度は20cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭である。覆土は暗褐色土で炭化粒が微量含まれる。確認面から中世土師器皿(12・13)が出土し、覆土中から銭貨が7枚出土している。そのうち3枚は銭種不明だが、残りの4枚はいずれも北宋銭である。1枚多いが六道銭と考えられ墓坑であろう。

SN(3)257(第12図)

C区J10グリッドに位置する。平面形は楕円形で、径140×100cm、深度は50cmを測る。覆土は褐色粘質土を主とする。出土遺物はない。

SN(3)401(第13図)

C区J8グリッドに位置する。平面形は隅丸の正方形で、径130×130cm、深度は90cmを測る。内部は擂鉢状になっており底面は狭い。覆土は灰色系の砂やシルトがレンズ状に堆積している。北側に所在する溝SN(3)404とは小さな溝でつながっており、また上層からも水が流れ込んでいた様相が窺われ、貯水施設のような機能が考えられる。

SN(3)446(第14図)

C区J6グリッドに位置する。平面形は不整形で、径220×210cm、深度は30cmを測る。覆土は暗褐色粘質土を主とし、礫が混じる。出土遺物はない。

SN(3)456(第14図)

C区J6グリッドに位置する。平面形は不整形で、径280×230cm、深度は45cmを測る。覆土は暗褐色粘質土を主とする。出土遺物はない。

SN(3)484(第14図)

C区J6グリッドに位置する。平面形は略円形で、径190×190cm、深度は20cmを測る。覆土は黒褐色粘質土を主とする。出土遺物はない。

SN(3)498(第14図)

C区J5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、径290×260cm、深度は40cmを測る。覆土は暗褐色粘質土で礫が混じる。瀬戸鉢皿(32)、炉石(33)が出土している。

SN(3)516(第15図)

C区J5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、径210×120cm、深度は40cmを測る。覆土は暗褐色粘質土・黒褐色粘質土を主とする。珠洲甕(36~38・40)、片口鉢(39)、青磁碗(35)が出土している。

SN(3)521(第15図)

C区J 5 グリッドに位置する。平面形は歪な楕円形で、径230×70cm、深度は10cmを測る。覆土は黒褐色粘質土を主とする。青磁碗(41)が出土している。

SN(3)554(第15図)

C区J 5 グリッドに位置する。平面形は歪な楕円形で、径200×120cm、深度は20cmを測る。覆土は暗褐色灰粘質土を主とする。出土遺物はない。

SN(3)570(第18図)

C区J 7 グリッドに位置する。平面形は不整形で2つの土坑が複合したものか。径580×240cm、深度は40cmを測る。覆土は褐灰色粘質土を主とする。珠洲片口鉢、土師器皿が出土している。

SN(3)572(第15図)

C区J 6・7 グリッドに位置する。平面形は歪な隅丸方形で、径210×200cm、深度は60cmを測る。覆土は大小の礫を含む暗褐色灰粘質土と黒褐色土である。土師器皿(42)が出土している。

SN(3)599(第16図)

C区J 17 グリッドに位置する。平面形は隅丸方形で、径210×140cm、深度は60cmを測る。覆土は大小の礫を含む暗褐色灰粘質土を主とする。珠洲片口鉢(43)が出土している。

SN(5)112(第16図)

E区J20 グリッドに位置する。平面形は楕円形で、径200×160cm、深度は30cmを測る。覆土は灰色土と褐色土を主とし地山質の黄色土が粒上に混じる。4層より完形の和鏡(44)が1点出土している。

d) ピット

SN(3)25(第17図)

A区G 4 グリッドに位置する。平面形は略円形で、60×60cm、深度は25cmを測る。覆土は明灰色粘質土である。中世土師器皿(46)が出土している。

SN(3)134(第17図)

C区J 9 グリッドに位置する。平面形は楕円形で、50×35cm、深度は20cmを測る。覆土は暗褐色土である。釘(48)が出土している。

SN(3)153(第17図)

C区J 9 グリッドに位置する。平面形は略円形で、60×60cm、深度は10cmを測る。覆土は暗褐色土である。珠洲片口鉢(47)が出土している。

SN(3)557(第17図)

C区H 8 グリッドに位置する。平面形は略円形で、40×30cm、深度は20cmを測る。覆土は暗褐色土である。熙寧元宝(49)が出土している。

SN(3)592(第17図)

C区J 7 グリッド壁際に位置する。平面形は不整形で、検出した規模は70×50cm、深度は10cmを測る。覆土は暗褐色粘質土である。行火(50)が出土している。

e) 溝

SN(3)137・212(第17図)

C区H 9・10・II0・J10・K10 グリッドにかけて位置する。東西に流れるSN(3)137が南に向かってほぼ直角に曲がって南北の流れSN(3)212になる。東西約25m、幅1.4m、深さ5cm、南北の流路は約10m、幅1.4m、深さ15~20cmである。覆土は黄褐色土を主とする。青磁碗の小片が出土しているが、肥前磁器碗なども出土しており、時期は中世から近世にわたるものである。

SN(3)601(第18図)

C区J 7 グリッドに位置する。東西の流路で長さ約10m、幅は1.0~2.2m、深さは5~10cmである。覆土は褐色灰色砂質土である。珠洲片口鉢(60)が出土している。

f)平行溝群

SN(3)平行溝群(第18図)

C区H10・11・H11グリッドに位置する。7条の平行する溝を検出した。調査区の北側に伸びているため全体の規模は分からぬが、検出した長さは4.0m~8.3m、幅は40~80cmを測る。深さは多くが5~10cmであるが、一部に40cmほどのものもある。軸はN-30°-E前後である。覆土は黄褐色土を主とする。出土遺物はなかった。

(3)近世の遺構

a)溝

SN(5)60・102・118・129(第19図)

E区I19~21・J19グリッドに位置する。途中切れているが一連の流路である。流路は東から南西に流れ、その後北へと向かう。長さは約22m、幅は50~200cm、深さは10~60cmを測る。覆土は灰色砂質土を主とする。肥前陶器碗(62)、土師器土鉢(63)、秉燭(64)や近世陶磁器片が出土している。

第5節 遺 物

(1)遺構出土遺物(第21~24図)

1~8は繩文土器で酒見式の注口土器である。9は打製石斧で石質は凝灰岩である。11~13は中世土師器皿で油煤痕の付着するものはない。14~20は錢貨で16は聖宋元宝(初鑄年1101年)、17・20は天聖元宝(初鑄年1023年)、19は景德元宝(初鑄年1005年)である。14・15・18は判読できなかった。21・22は行火で22は削り出しの足の部分である。23は珠洲片口鉢口縁部で吉岡編年Ⅳ期に相当する。24は元豐通宝(初鑄年1078年)である。27は珠洲片口鉢で胎土は粗い。28・29は行火の蓋である。31・33は炉石で被熱痕が目立つ。32は瀬戸鉢皿で藤澤編年後Ⅰ~Ⅲ期である。漆継の痕がかすかに残る。35・41は青磁碗で、口縁は外反し無文である。36~38・40は珠洲窯体部片で、内面が剥離している。39は珠洲片口鉢だが鉢目は確認できない。42は中世土師器皿で油煤痕が残る。44は和鏡である。洲浜菊花双鳥鏡といわれる構図で、鉢は亀甲形を呈する。45は珠洲片口鉢で鉢目は10本である。吉岡編年Ⅳ期である。46は中世土師器皿の完形で、底部は丸底、器形は歪む。49は熙寧元宝(初鑄年1068年)である。51は肥前陶器皿で砂目が残る。59はカスガイ型の火打金である。62は肥前陶器碗で陶胎染付ある。64は土師質の秉燭である。

(2)包含層その他出土遺物

65~74は繩文土器である。65は粗製深鉢、73は酒見式の注口土器である。76~94は打製石斧である。石質は凝灰岩が多数を占め、砂岩その他の者が若干ある。95は凝灰岩の磨製石斧である。97~117は中世土師器皿でこのうち97・98・102・103・106・108・113・114・115・116には油煤痕が残る。118~126は珠洲片口鉢で時期は吉岡編年のⅢ~Ⅴ期に相当する。128・129は加賀鉢、128は高台を持つ。130~141は瀬戸美濃の陶器で時期は藤澤編年後Ⅰ~Ⅲ期を中心とする。142は白磁合子である。143は白磁碗で漆継が残る。147~155は肥前陶磁器で、17~18世紀頃のものである。157~162は砥石で仕上砥石・中砥石である。

第3章 総 括

縄文・弥生時代

本遺跡における当該時期の遺構は極めて少なく、縄文土器の出土したSN(3)31・打製石斧の出土したSN(3)52のみである。このうちSN(3)31からは酒見式の注口土器が出土している。また包含層からは若干の縄文土器や、打製石斧が出土している。本遺跡の周辺にある栗田遺跡や三納アラミヤ遺跡からは縄文時代晚期～弥生時代初頭と考えられる打製石斧の素材採取地や石器製作跡が見つかっており、人々の活動を窺うことができる。ただし本遺跡を含めて野々市町中南部地区の遺跡からはこの時期の住居跡など定住の跡は現在のところ見つかっておらず、短期的な活動の痕跡が確認されるのみである。

古 代

本遺跡の周辺には野々市町南部遺跡群や末松遺跡群といった大規模な古代集落遺跡が所在し、また今後の区画整理事業地内でも古代の遺跡として栗田遺跡や後述する三納アラミヤ遺跡・藤平田ナカシンギジ遺跡が確認されている。しかし本遺跡では当該時期の遺構は確認されていない。

中 世

中世は本遺跡の主体となる時期である。遺跡の様相は既刊『三納ニショサ遺跡(第1・2・4・6・7次)・三納アラミヤ遺跡(第3次)・藤平田ナカシンギジ遺跡(第1・3次)』と同様であり、遺構の集中する南部エリアと遺構の希薄な北部エリアの2つに分かれる。

南部エリアは手取川によって運ばれてきた大小多くの礫によって地山面が覆われており、扇状地特有の形状をしている。そしてここを中心として掘立柱建物・堅穴状遺構・土坑・ピットなどが集中して検出されている。このうち堅穴状遺構は掘立柱建物周辺に位置しており、長軸4m以下のAタイプが多数を占めている。しかし本町北部に所在する長池キタノハシ遺跡などで多数確認されている井戸については本遺跡では確認されていない。このことは地下水位の高い扇状地扇尖部に位置する本遺跡と、地下水位の低い扇状地扇端部に位置する長池キタノハシ遺跡などの地形的立地に起因するものであろう。また、本遺跡では区画溝や道路状遺構は確認されておらず、計画的な宅地割りが行われた形跡はあまり見られない。

これらの遺構及び包含層からは14～15世紀前半を中心とする土師器皿や珠洲・加賀・瀬戸などの国産陶器、青磁・白磁といった中国製磁器が出土している。行火やか石などの石製品、銭貨や釘などの金属製品が出土している。出土土器のほとんどは飲食器や調理・調整用具・貯蔵用具などの日常用具である。包含層から瀬戸花瓶や天目茶碗は出土しているが量的には極僅かである。

一方北部エリアは南部エリアとは対照的に礫があまり見られない良好な地山を呈している。しかしながら遺構密度は極めて低く、建物跡と考えられるものは皆無であり、それに伴って出土遺物もほとんどない。一部調査区では遺構面が上層・下層の2面が確認されており、その上層部分からは耕作地と考えられる平行溝群が検出している。他の部分からは見つかっていないが、後世の削平を受けていると考えられ、概ね耕作地として利用されていたのであろう。

また北部エリアからは数基の土坑が検出されている。南部エリアの建物群から約120m北に位置するSN(5)112からは完形の和鏡が一点出土しており、他の共伴遺物はなかったが土坑の規模から墓坑と思われる。またその周辺には出土遺物はないものの、SN(5)112と規模・形状の類似する土坑があ

り同じく墓坑となるものと思われる。また、建物群から少し離れた場所にある土坑SN(3)239からは土師器皿や銭貨が出土しており、やはり墓坑と考えられる。

このように三納ニショサ遺跡は、南部の居住エリアと北部の耕作地エリアに大別され、南部の居住エリアはおおむね南北60m、東西70mの範囲に集中する集村的な集落構造であったこと、その周辺に耕作地や墓域などの空間が広がる一般的な集落であったと思われる。

近世以降

近世以降の遺構は北部エリアの一部で溝跡が検出されるのみである。中世の集落が廃絶した後は、耕作地として利用されて今日に至っているのであろう。

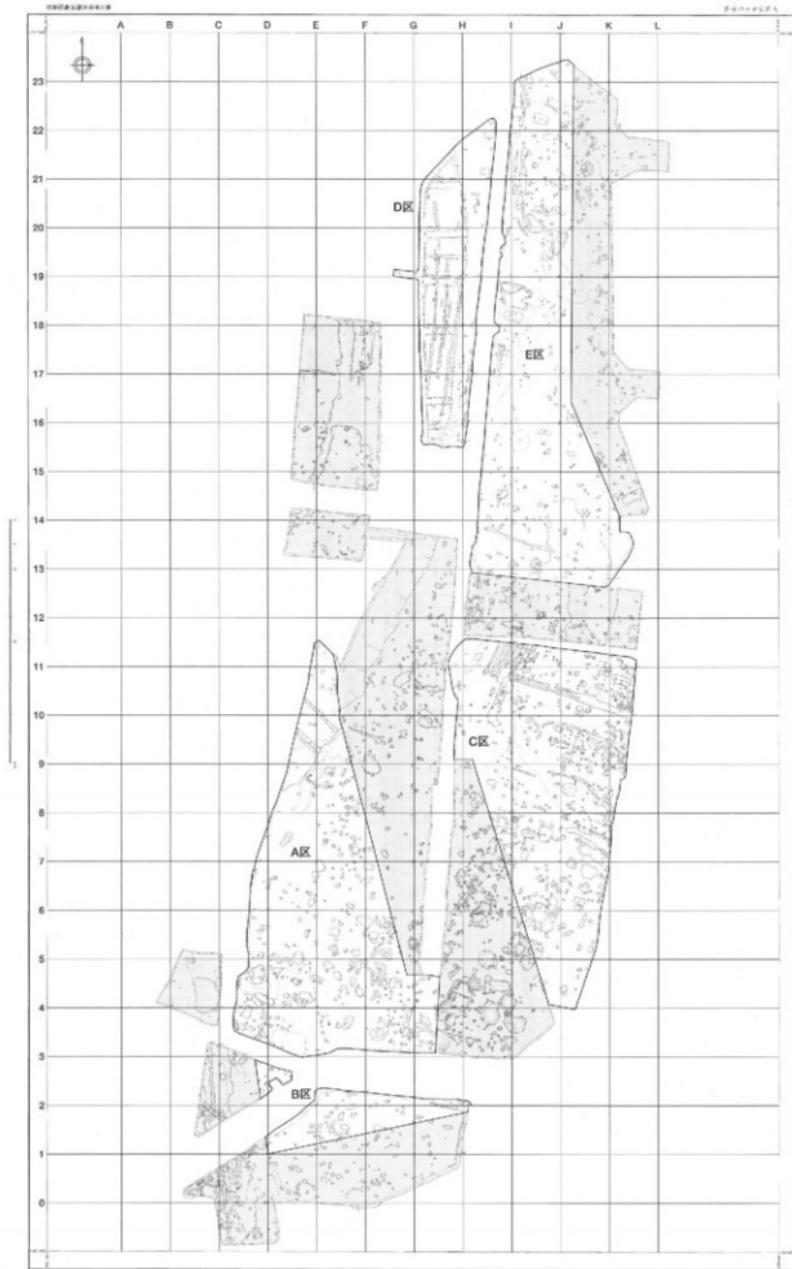
参考文献

- (社)石川県埋蔵文化財保存協会 1991 「栗田遺跡発掘調査報告書」
石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2005 「末松遺跡」
野々市町教育委員会 1992 「栗田遺跡第二次発掘調査報告」
野々市町教育委員会 1998 「上新庄ニシウラ遺跡」
野々市町教育委員会 1999 「下新庄アラチ遺跡」
野々市町教育委員会 2000 「長池キタノハシ遺跡」
野々市町教育委員会 2000 「上林新庄遺跡 上林テラダ遺跡 上林古墳 下新庄タナカダ遺跡」
野々市町教育委員会 2003 「扇が丘ハワイゴク遺跡」
野々市町教育委員会 2003 「宿禰館跡Ⅲ」
野々市町教育委員会 2006 「栗田遺跡(第10次)・三納アラミヤ遺跡(第1・2次)・三納トハイダゴシ遺跡(第1・3次)」
野々市町教育委員会 2007 「三納ニショサ遺跡(第1・2・4・6・7次)・三納アラミヤ遺跡(第3次)・藤平田ナカシンギジ遺跡(第1・3次)」
野々市町史専門委員会 2003 「野々市町史 資料編1」 石川県野々市町
北陸中世土器研究会 1997 「中・近世の北陸」 桂書房

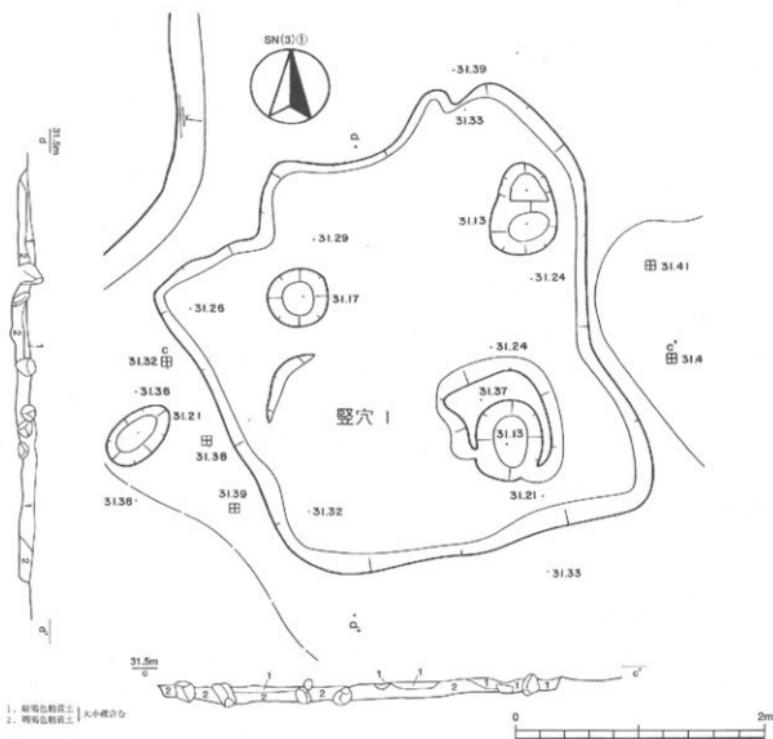
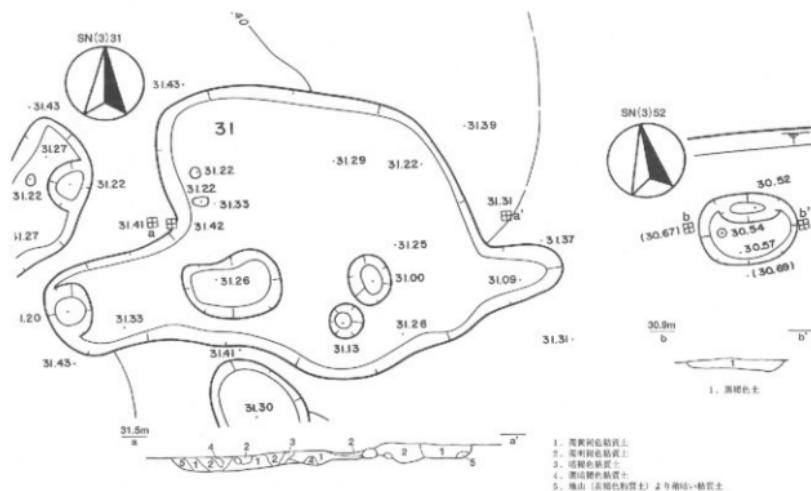
西番 学名 番号	出子地点	形態	種特	口徑 (mm)	盤高 (mm)	底径 (mm)	残存率	色調	色調	新さ	備考	
1 105 SN03031		圓文	江口土器				小片	外：灰褐 内：にぶい黄褐色	S-2			
2 100 SN03031	4	圓文	江口土器				小片	外：灰 内：にぶい黄褐色	S-1			
3 104 SN03031	11	圓文	江口土器				小片	外：にぶい黄褐色 内：暗灰青	S-1			
4 106 SN03031	11	圓文	江口土器				小片	外：にぶい黄褐色 内：灰	S-1			
5 107 SN03031	11	圓文	江口土器				小片	外：にぶい黄褐色 内：灰	S-1			
6 101 SN03031	d	圓文	江口土器				小片	外：にぶい黄褐色 内：灰	S-1			
7 103 SN03031	e	圓文	江口土器				小片	外：にぶい黄褐色 内：灰	S-2			
8 98 SN03031	b + b	圓文	江口土器				小片	外：にぶい黄褐色 内：灰	S-1			
9 68 SN03032	c -	石器	打製石器	136	86	35	完全	外：灰 内：にぶい黄褐色	S-2 + M-1			
10 130 SN03032	A区上層	網狀 網	網				小片	織：灰褐色 網：灰	34g、無茎苔 網2			
11 120 SN03034	A区	中层土器	重	112			1/2	外：灰褐色 内：灰	S-1 + M-1			
12 30 SN03039	壁狀陶	中层土器	重	112	20	88	2/9	外：灰 内：灰白	S-1			
13 30 SN03039	壁狀陶	中层土器	重	125			1/2	外：灰褐色 内：灰白	S-1			
14 SN03039	c -	金屬製品	錫質	26	17	13				0.8g		
15 SN03039	c -	金屬製品	錫質	22	21	12				0.8g		
16 SN03039	c -	金屬製品	錫質	22	22	13				1.1g、無元字		
17 SN03039	c -	金屬製品	錫質	29	21	12				2.0g、天皇丸文		
18 SN03039	c -	金屬製品	錫質	24	22	12				1.0g		
19 SN03039	c -	金屬製品	錫質	25	20	14				0.8g、無茎苔		
20 SN03039	c -	金屬製品	錫質	25	22	14				1.1g、天皇丸文		
21 68 SN03041	CX	石器	石器	101	94					33g		
22 70 SN03041	CX	石器	石器	49	49					205g		
23 120 SN03045	CX	珠	片状珠	200		19		外：灰	S-1 + M-1			
24 SN03045	CX	珠	錫質	24	24	12				1.5g、元章道文		
25 140 SN03049	1	中层土器	重	69	19	20	完全	外：褐 内：灰	S-1			
26 21 SN03049	b	中层土器	重	93				外：灰 内：灰	S-1			
27 140 SN03049	d - j + 5 - 17	中层土器	重	145			1/4	外：灰 内：灰	S-1 + M-1	海膽附骨		
28 158 SN03049	d	中层土器	重	108	72	38				72g		
29 139 SN03049	d	中层土器	重	122	73	39				73g		
30 75 SN03049	d	中层土器	重	126	26	36				8800g		
31 68 SN03049	d	中层土器	重	126						420g		
32 81 SN03048	d	陶器	陶器	160	126					標題、津掛		
33 80 SN03048	b	陶器	仰山	134	125	104		外：灰 内：灰	S-1	566g		
34 SN03049		石器										
35 142 SN03049	c	石器	錫	194			1/7	外：青銅胎 内：灰	黑色系			
36 133 SN03016	武則	珠	珠				小片	外：灰 内：灰	S-2 + M-1 + L-1			
37 135 SN03016	武則	珠	珠				小片	外：灰 内：灰	S-2 + M-1 + L-1	海膽骨附		
38 127 SN03016	武則	珠	珠				小片	外：灰 内：灰	S-2 + M-1 + L-1	海膽骨附		
39 136 SN03016	武則	珠	珠				小片	外：灰 内：灰	S-2 + M-1 + L-1	海膽骨附		
40 136 SN03016	武則	珠	珠				小片	外：灰 内：灰	S-2 + M-1 + L-1	海膽骨附		
41 141 SN03021	青葉	青葉	青葉	145		1/9		外：灰 内：灰白	S-1 + 黑色系			
42 126 SN03021	青葉	青葉	青葉	94		1/6		外：灰 内：灰白	S-1			
43 127 SN03069	笠	珠	片状珠	226		1/7		外：灰 内：灰	S-1 + M-1 + L-1			
44 進道 SN03012		金屬製品	錫鍍	104.5	101.5	10	完形			18g、無帶花鳥文		
45 12 SN03020	丟面	珠	片状珠	266	125	106	1/9	外：灰 内：灰	S-1 + M-1 + L-1			
46 56 SN03025	CX	珠	片状珠	769	118	658	完全	外：灰 内：灰白	S-1 + 灰白			
47 120 SN03033	c -	金屬製品	錫質	112	22	22		外：灰 内：灰	S-1 + M-1 + L-1	6g		
48 132 SN03033	c -	金屬製品	錫質	149	12	45		外：灰 内：灰	S-1 + 灰白	1.1g、無元字		
49 SN03037	CX	珠	片状珠	266	125	106	1/9	外：灰 内：灰	S-1 + 灰白			
50 123 SN03037	CX	珠	片状珠	769	118	658	完全	外：灰 内：灰白	S-1 + 灰白			
51 12 SN03029		更賀向附	圓錐	140			1/7	外：灰 内：灰白	砂目、破毛目			
52 4 SN03018		更賀向附	圓錐				小片	外：にぶい灰褐色 内：灰白	S-2			
53 5 SN03018		更賀向附	圓錐				小片	外：灰白	S-2 + M-1 + L-1	海膽骨附		
54 6 SN03018		更賀向附	圓錐				外：灰白	外：灰白	S-1 + L-1			
55 140 SN03018	更賀向附	圓錐	圓錐	106	22	38	1/6	外：灰 内：灰白	外：灰白 内：灰白	黑色系		
56 120 SN03018	更賀向附	圓錐	圓錐	132			小片	外：灰 内：灰	S-1			
57 75 SN03037	青葉	青葉	青葉	132			1/12	外：灰 内：灰白	外：灰 内：にぶい黄褐色			
58 72 SN03037	青葉	青葉	青葉	227			24 / 2	外：灰 内：灰白	外：灰 内：にぶい黄褐色			
59 72 SN03037	青葉	青葉	青葉	227	70	69		外：灰 内：灰白		25g		
60 48 SN03021		青葉	青葉	196	17		1/7	外：灰 内：灰白	S-1 + L-1			
61 70 SN03021		青葉	青葉	196	17		1/7	外：灰 内：灰白	S-1 + L-1			
62 1 - 5 SN03060		近江告符	重	101				外：灰褐色 内：灰白	S-1			
63 1 - 5 SN03060		近江告符	重	92	14		1/4	外：灰褐色 内：灰白	濃色系			
64 2 SN03060		近江告符	重	106	25	28	1/2	外：灰褐色 内：灰白	S-2			
65 1 SN030	K9グリッド	繪文	深模	630	2	2	1/7	外：灰 内：灰白	S-2 + M-1 + L-2			
66 2 SN030	K9グリッド	繪文	深模	630	2	2	1/7	外：灰 内：灰白	S-2 + M-1 + L-2			
67 84 SN030	K9グリッド	繪文	深模				小片	外：にぶい黄褐色 内：灰白	S-1 + M-1 + L-1 + L-2			
68 37 SN030	K9グリッド	繪文	深模				小片	外：にぶい黄褐色 内：灰白	S-2 + M-1 + L-1 + L-2			
69 28 SN030	K9グリッド	繪文	深模				小片	外：にぶい黄褐色 内：灰白	S-2 + M-1 + L-1 + L-2			
71 1 SN030	D4グリッド	繪文	打製石器				小片	外：にぶい黄褐色 内：灰白	S-1 + M-1 + L-1			
72 2 SN030	D4グリッド	繪文	打製石器				小片	外：にぶい黄褐色 内：灰白	S-1 + M-1 + L-1			
73 22 SN030	D4グリッド	繪文	打製石器				小片	外：にぶい黄褐色 内：灰白	S-2 + M-1 + L-2			
74 7 SN030	D4グリッド	繪文	打製石器				小片	外：にぶい黄褐色 内：灰白	S-1 + M-1 + L-2			
75 61 SN030	15グリッド	繪文	打製石器	659	619	120	小片	外：にぶい黄褐色 内：灰白	S-2 + M-1 + L-2			
76 71 SN030	111グリッド	繪文	打製石器	675	59	629	2/6	外：灰 内：灰白	5g、鉛			
77 69 SN030	J11グリッド	繪文	打製石器	680	678	223			135g、鐵			
78 67 SN030	J10グリッド	繪文	打製石器	679	684	229			1364g、鐵			
79 29 SN030	CX - A	繪文	打製石器	680	679	229			外：鐵 内：鐵			
80 92 SN030	CX - A	繪文	打製石器	143	106	98			外：鐵 内：鐵			
81 64 SN030	D6グリッド	繪文	打製石器	127	110	98			外：鐵 内：鐵			
82 93 SN030	CX - B	繪文	打製石器	117	105	99			外：鐵 内：鐵			
83 63 SN030	CX - M	繪文	打製石器	109	678	259			外：鐵 内：鐵			
84 70 SN030	B6グリッド	繪文	打製石器	117	26	25			外：鐵 内：鐵			
85 65 SN030	CX - L	繪文	打製石器	144	72	34	完形			118g、鐵		
86 12 SN030	K9グリッド	繪文	打製石器	151	69	20				31g、鐵		
87 66 SN030	CX - J	繪文	打製石器	147	86	34	完形			32g、鐵 外：鐵		
88 71 SN030	CX - D	繪文	打製石器	108	80	21	完形			222g、鐵		
89 14 SN030	K9グリッド	繪文	打製石器	162	79	34	完形			447g、鐵		

番号	東面 西面	出土地点	法ほか	種類	形態	口径 (mm)	壁高 (mm)	底径 (mm)	残存率	色調	色調	胎土	備考	
00	13	SN40	K9グリッド	石器	打製石器	159	90	27	完形				373g、火山岩質灰岩	
01	72	SN40	C区・C	石器	打製石器	163	85	30	完形				340g、火山岩質	
02	16	SN40	カグリッド	石器	打製石器	179	81	46	完形				614g、火山岩質灰岩	
03	15	SN40	カグリッド	石器	打製石器	137	84	46	完形				534g、火山岩質灰岩	
04	12	SN40	カグリッド	石器	打製石器	109	74	37	完形				496g、鶴見岩	
05	20	SN40	カグリッド	石器	打製石器	109	74	37	完形				1488g	
06	13	SN40	H4グリッド	石器	石器	255	252	128						
07	84	SN40	カグリッド	中世・近世	石器	65	1/5			内:灰青褐色 外:灰青褐色	内:灰青褐色 外:灰青褐色	S-1・黑色粒		
08	126	SN40	八区南東	中世・近世	石器	64	32	16	1/4				S-1	
09	66	SN40	カグリッド	中世・近世	石器	60			1/7	内:灰青褐色	内:灰青褐色	S-1		
100	79	SN40	BS・67グリッド	中世・近世	石器	70			11/16	外:灰青褐色	内:灰青褐色	S-1・M-1・石英		
101	85	SN40	カグリッド	中世・近世	石器	63			1/5	外:浅黃	内:灰白	S-1		
102	42	SN40	C区・C	中世・近世	石器	78	19	30	1/4	外:斑白	内:灰青褐色	S-2		
103	24	SN40	A区南東	中世・近世	石器	75	0.4	64	1/12	外:灰青褐色 内:灰青褐色	内:灰青褐色 内:灰青褐色	S-1		
104	12	SN40	A区南東	中世・近世	石器	72			1/7	外:灰青褐色	内:灰青褐色	S-1		
105	67	SN40	カグリッド	中世・近世	石器	89	18	39	1/8	内:灰青褐色	内:灰青褐色	S-1		
106	50	SN40	カグリッド	中世・近世	石器	78			1/7	外:灰青褐色	内:灰白	S-1		
107	45	SN40	カグリッド	中世・近世	石器	80			1/9	外:灰青褐色	内:灰青褐色	S-1		
108	9	SN40	白堊	石器	77			1/2	外:灰青褐色	内:灰青褐色	S-2			
109	83	SN40	カグリッド	中世・近世	石器	101			1/12	内:灰青褐色	内:灰青褐色	S-1		
110	23	SN40	A区南東	中世・近世	石器	1009			1/12	外:灰青褐色 内:灰青褐色	内:灰青褐色	S-1		
111	128	SN40	A区南東	中世・近世	石器	1000			小片	内:灰青褐色	内:灰青褐色	S-1		
112	26	SN40	A区南東	中世・近世	石器	106			1/18	外:灰青褐色	内:灰青褐色	S-1・白色粒		
113	34	SN40	BS・16グリッド	中世・近世	石器	98			1/4	外:灰白	内:灰白	S-1		
114	12	SN40	H6・17グリッド	中世・近世	石器	93			1/9	外:灰青褐色	内:灰青褐色	白色粒		
115	127	SN40	A区南東	中世・近世	石器	112			小片	外:灰白	内:灰青褐色	S-1		
116	25	SN40	A区南東	中世・近世	石器	105			小片	外:灰白	内:灰青褐色	S-1		
117	18	SN40	A区南東	中世・近世	石器	104	19	659	2/9	外:灰青褐色	内:灰青褐色	S-1・白色粒		
118	37	SN40	BS・16グリッド	陶器	片手柄	31			1/18	外:灰白	内:灰白	S-1・L-1		
119	39	SN40	C区南・東側	陶器	片手柄	336			1/9	外:灰白	内:灰白	S-1・M-1		
120	78	SN40	BS・16グリッド	陶器	片手柄	297			1/18	外:灰白	内:灰白	S-1・M-1		
121	80	SN40	カグリッド	陶器	片手柄	256			1/9	外:灰白	内:灰白	S-1・M-1		
122	26	SN40	カグリッド	陶器	片手柄	230			1/9	外:灰白	内:灰白	S-1・M-1・黒色粒・輪郭粒		
123	65	SN40	カグリッド	陶器	片手柄	482			1/12	外:灰青褐色	内:灰青褐色	S-1・M-1		
124	38	SN40	BS・16グリッド	陶器	片手柄	300			1/18	外:灰白	内:灰白	S-1・M-1・L-1		
125	123	SN40	地裏	陶器	片手柄	125			1/2	外:灰白	内:灰白	S-2・M-1		
126	43	SN40	カグリッド	陶器	片手柄	124	1/5		外:灰白	内:灰白	S-1・M-1			
127	40	SN40	カグリッド	陶器	蓋	121			1/5	外:灰白	内:灰白	S-2		
128	27	SN40	BS・67グリッド	陶器	蓋	134	1/6		外:灰青褐色	内:灰青褐色	S-1・M-1・L-1			
129	91	SN40	C区南・東側	陶器	蓋	1839	1/12		外:灰白	内:灰白	S-2			
130	21	SN40	A区南東	陶器	瓶	150			1/9	外:灰白	内:灰白	S-1		
131	20	SN40	A区南東	陶器	瓶	139			1/12	外:灰白	内:灰白	S-1・M-1		
132	32	SN40	カグリッド	陶器	瓶	100			1/9	外:灰白	内:灰白	S-1・M-1		
133	134	SN40	A区南東	陶器	瓶	123			1/8	外:灰白	内:灰白	S-1		
134	56	SN40	56グリッド	陶器	小鉢	88			1/9	外:灰白	内:灰白	黑色粒		
135	32	SN40	C区北側	陶器	瓶	37			外:灰青褐色	内:灰青褐色	黑色粒	瓶		
136	52	SN40	カグリッド	陶器	瓶	47	8/9		外:灰白	内:灰白	黑色粒	瓶		
137	88	SN40	カグリッド	陶器	瓶	38	7/12		外:灰白	内:灰白	S-1・M-1	瓶		
138	39	SN40	カグリッド	陶器	瓶	80			1/7	外:灰白	内:灰白	S-1		
139	55	SN40	カグリッド	陶器	瓶	134			1/18	外:灰白	内:灰白	S-1		
140	74	SN40	カグリッド	陶器	瓶	75	1/4		外:灰白	内:灰白	S-1			
141	49	SN40	カグリッド	陶器	合子	17	71	1/6	外:灰白	内:灰白	黑色粒	瓶		
142	35	SN40	J10グリッド	陶器	合子	126			1/6	外:灰白	内:灰白	黑色粒・杰色粒		
143	45	SN40	カグリッド	陶器	合子	126			1/6	外:灰白	内:灰白	黑色粒		
144	18	SN40	E19グリッド	陶器	蓋	36	1/6		外:灰白	内:灰白	黑色粒	瓶		
145	65	SN40	カグリッド	陶器	蓋	80			1/6	外:灰白	内:灰白	黑色粒		
146	17	SN40	カグリッド	陶器	瓶	232			1/9	外:灰白	内:灰白	黑色粒		
147	82	SN40	カグリッド	陶器	瓶	70			1/9	外:灰白	内:灰白	黑色粒		
148	34	SN40	カグリッド	陶器	瓶	36	1/5		外:灰白	内:灰白	黑色粒	瓶		
149	15	SN40	カグリッド	陶器	瓶	90			1/12	外:透明玻璃	内:透明玻璃	黑色粒		
150	87	SN40	15・6・7グリッド	泥質陶器	瓶	60	49	26	底部1/2	外:透明玻璃	内:透明玻璃	黑色粒		
151	97	SN40	八区	泥質陶器	瓶	25			外:透明玻璃	内:透明玻璃	黑色粒・杰色粒			
152	20	SN40	六七共通	泥質陶器	瓶	41			外:透明玻璃	内:透明玻璃	黑色粒			
153	39	SN40	泥質陶器	泥質陶器	瓶	122	23	72	1/6	外:透明玻璃	内:透明玻璃	黑色粒		
154	16	SN40	六七共通	泥質陶器	瓶	125			小片	外:透明玻璃	内:透明玻璃	黑色粒		
155	19	SN40	119グリッド	泥質陶器	瓶	48	1/2		外:透明玻璃	内:透明玻璃	黑色粒	瓶		
156	44	SN40	上陸食	人形	400	[40]	289		外:灰白	内:灰白	黑色粒	瓶		
157	60	SN40	カグリッド	石質品	碗	82	35	5					18g	
158	38	SN40	カグリッド	石質品	碗	108	36	15					79g	
159	90	SN40	カグリッド	石質品	碗	105	54	38					283g	
160	120	SN40	A区	石質品	碗	96	43	34					394g	
161	56	SN40	カグリッド	石質品	碗	74	30	29					33g	
162	5	SN40	カグリッド	石質品	碗	100	45	16					50g	
163	130	SN40	カグリッド	石質品	碗	105	[68]	[70]	1/10				2340g	
164	133	SN40	C区	石質品	碗	101	[61]	[60]	1/10					

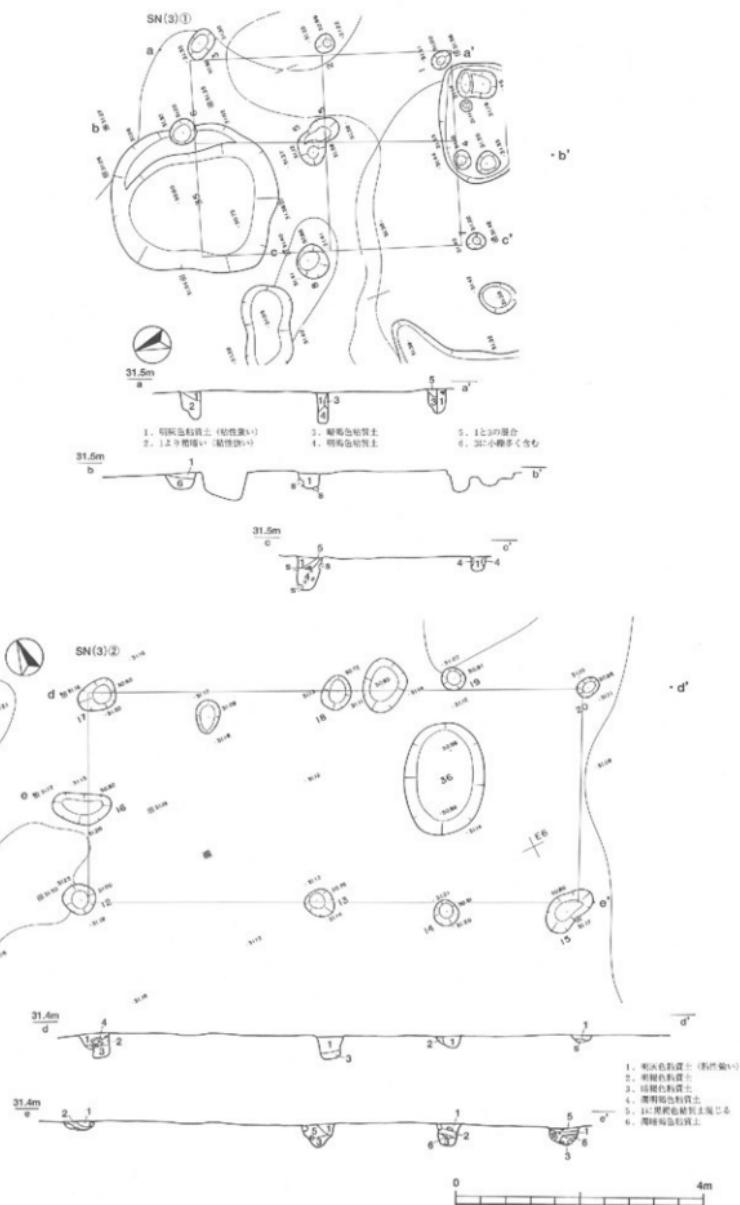
三納ニベヨ遺跡遺構図



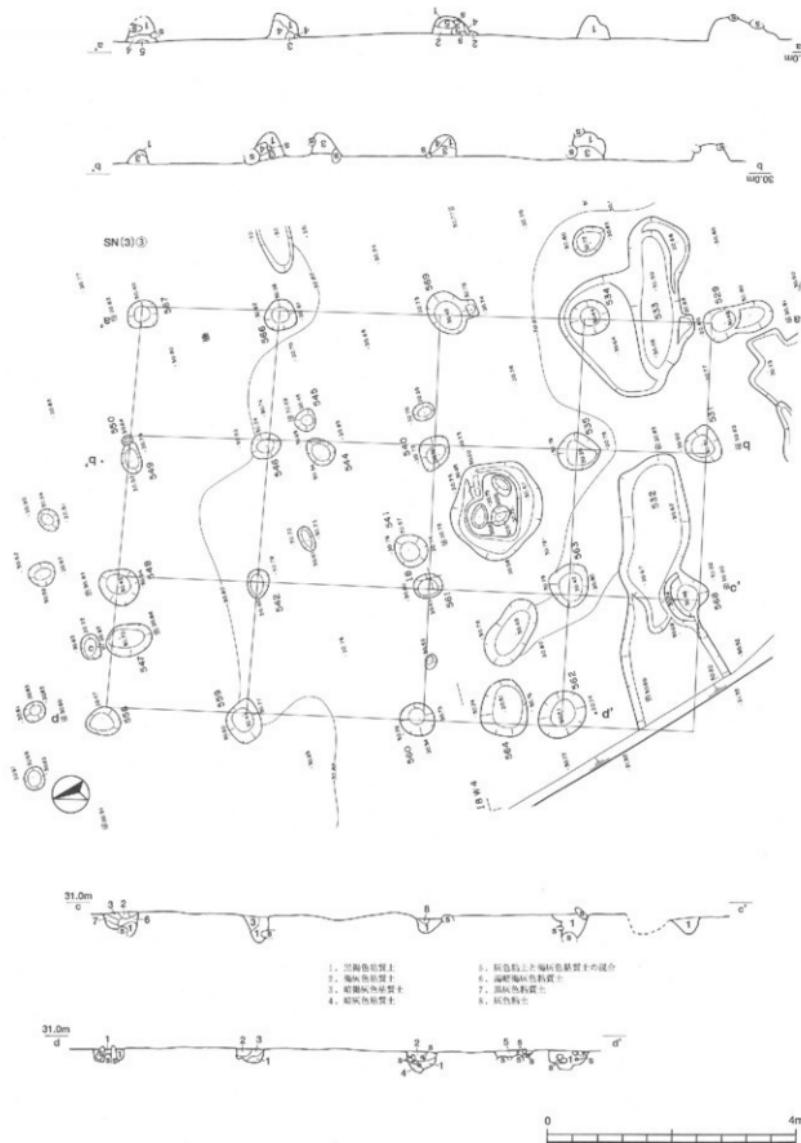
第3図 調査区・グリッド図 (1/1,000)



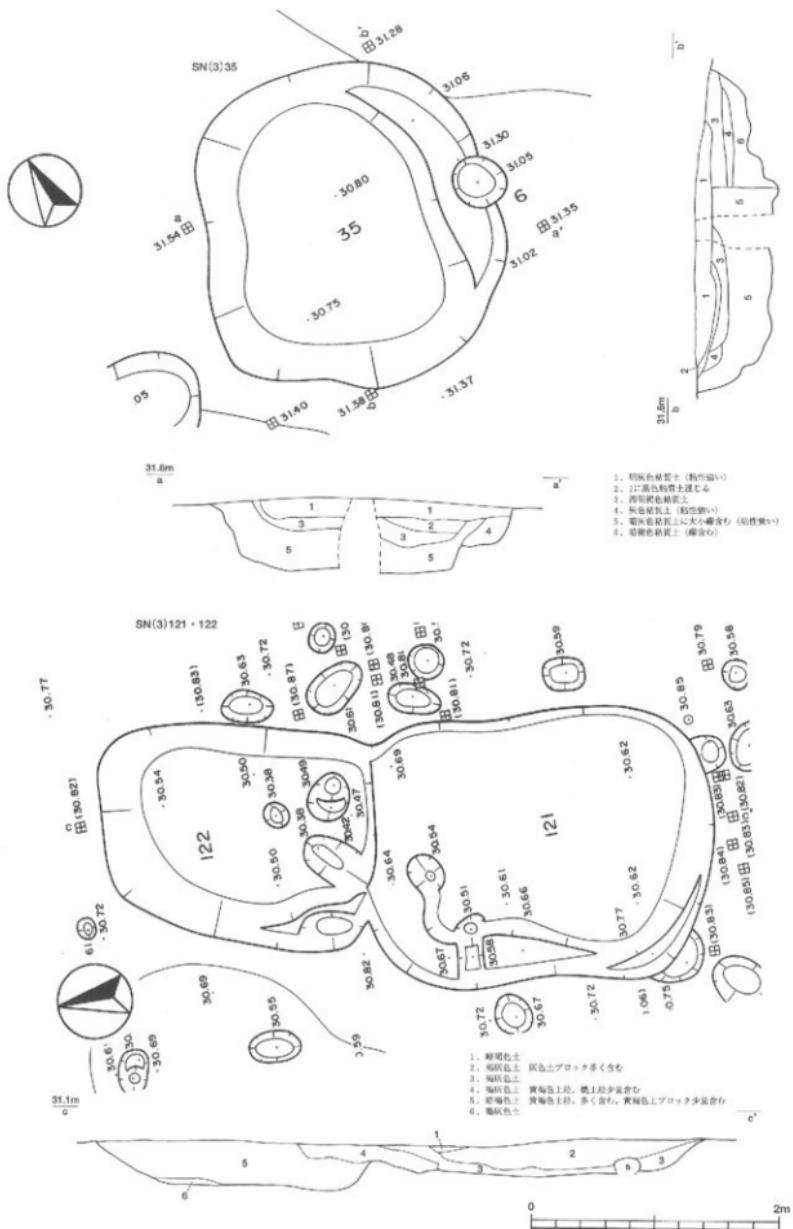
第4図 遺構実測図 土坑SN(3)31・ピットSN(3)52・竪穴建物I (1/40)



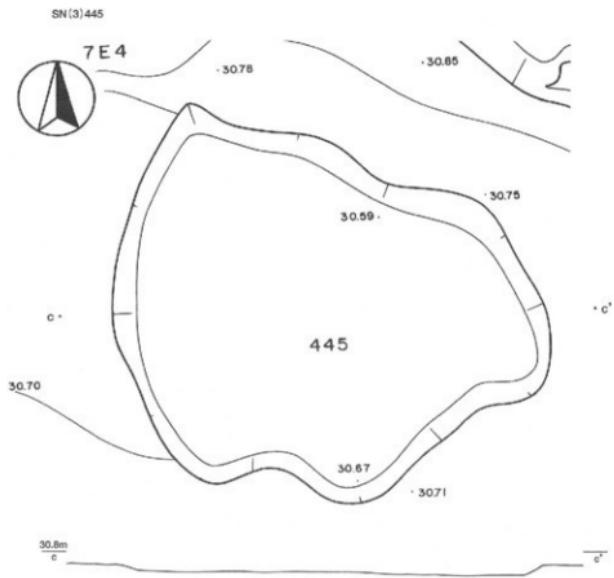
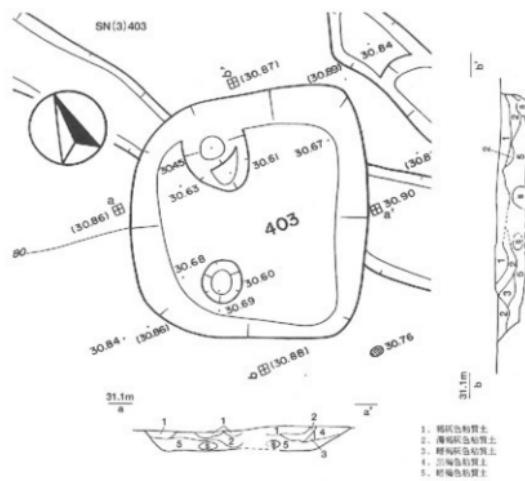
第5図 遺構実測図 掘立柱建物SN(3)①・② (1/80)



第6図 造構実測図 挿立柱建物SN(3)③ (1/80)

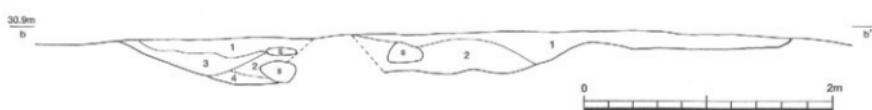
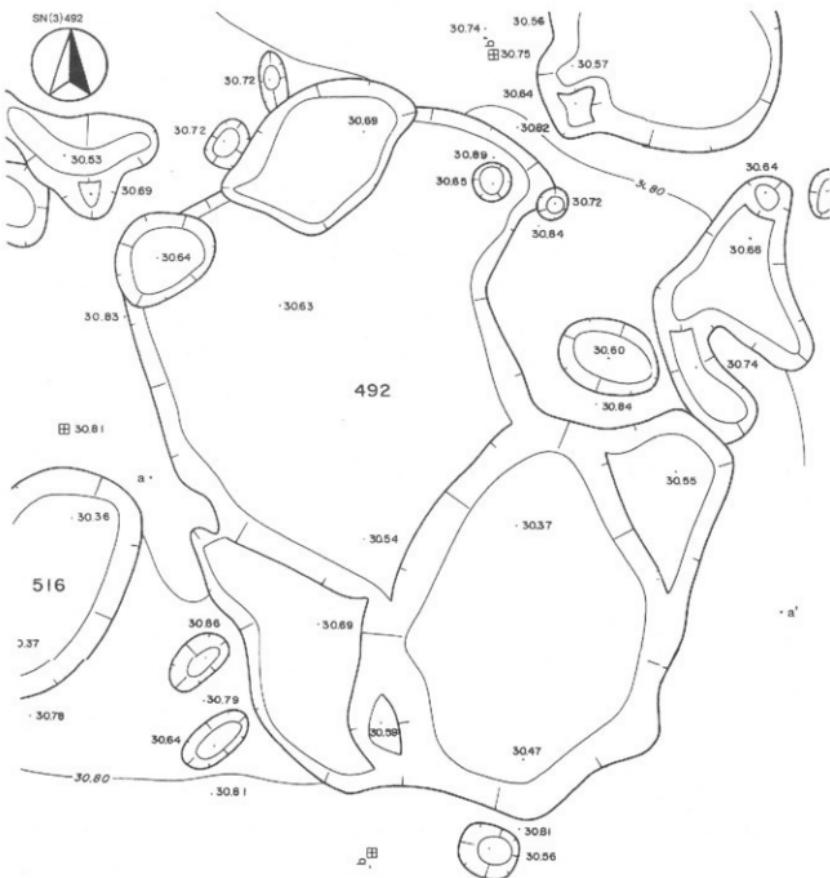


第7図 遺構実測図 積穴状遺構SN(3)35・121・122 (1/40)

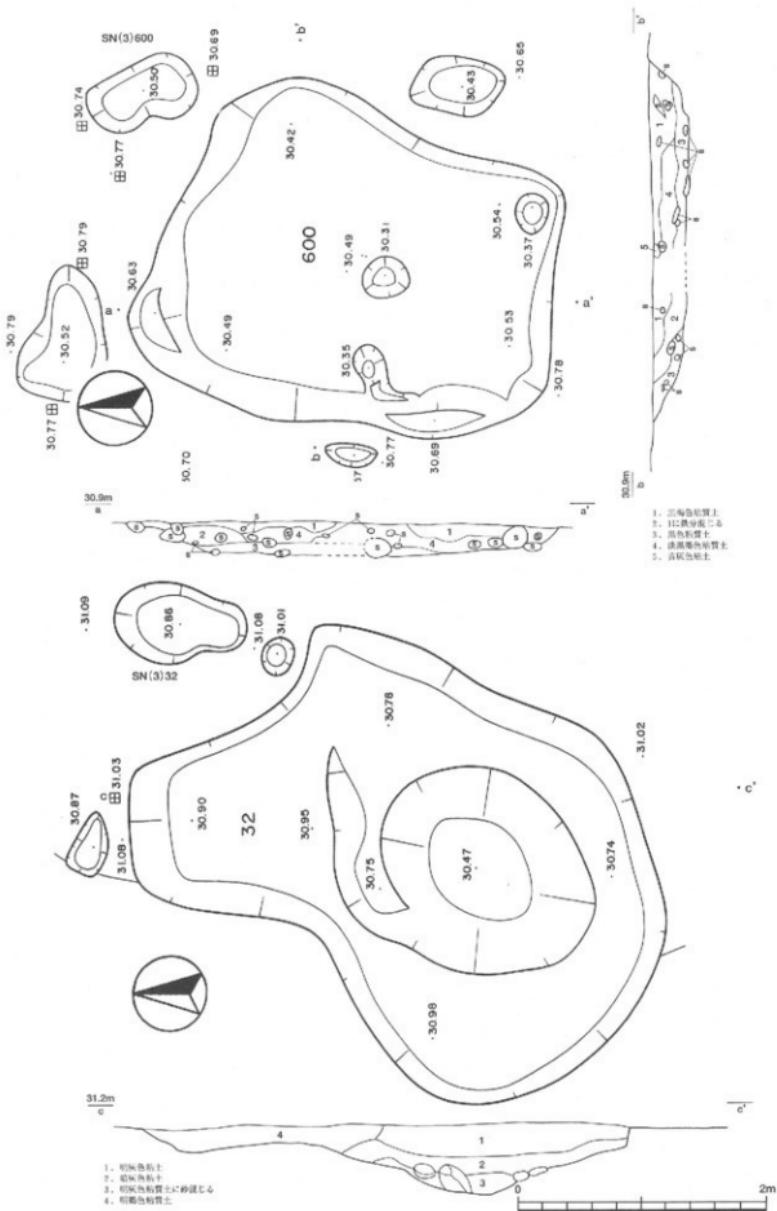


A horizontal number line starting at 0 and ending at 2m. There are 10 evenly spaced tick marks along the line, including the endpoints.

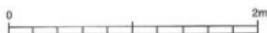
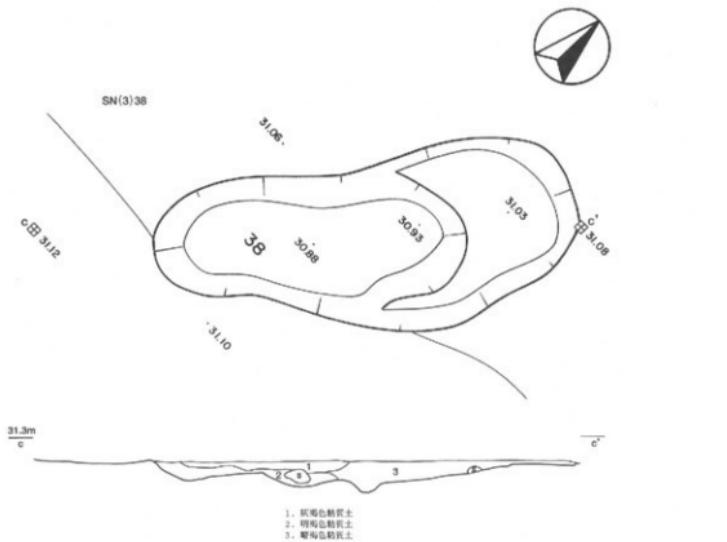
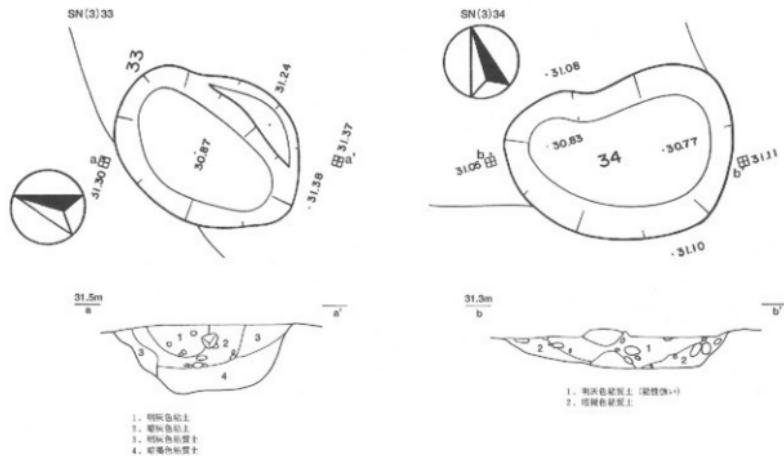
第8図 造構実測図 竪穴状造構SN(3)403・405 (1/40)



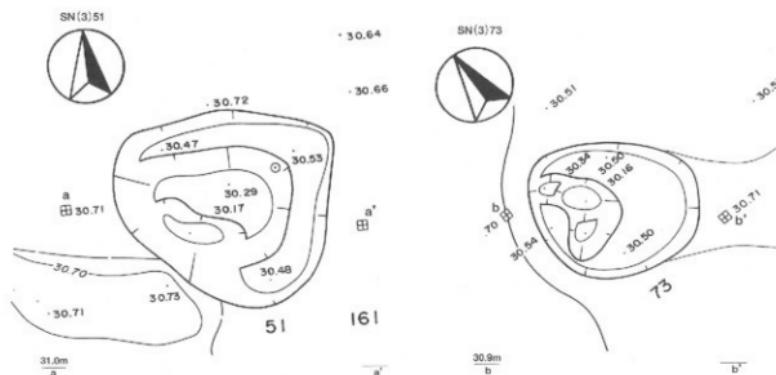
第9図 遺構実測図 竖穴状遺構SN(3)492 (1/40)



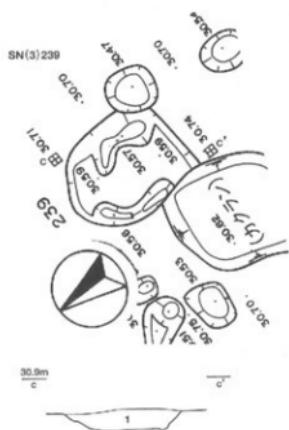
第10図 遺構実測図 竪穴状遺構SN(3)600・土坑SN(3)32 (1/40)



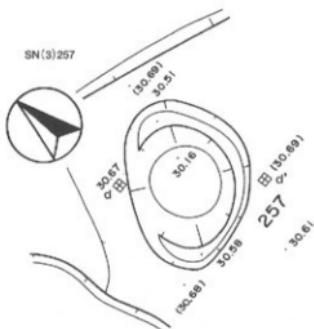
第11図 遺構実測図 土坑SN(3)33・34・38 (1/40)



1. 喀斯特灰土
2. 黑褐色土
3. 斑驳灰土。黄褐色土粒5%左右
4. 斑驳灰土



1. 膜表面土杆菌化扩散机理



1. 鷺色粘質土
2. 黒褐色粘質土ブロック混じる
3. は黒褐色粘土ブロック。黄褐色粘土ブロック混じる
4. より苟两者のい
5. 黄褐色粘質土
6. 細砂褐色粘質土
7. 粗砂褐色粘土

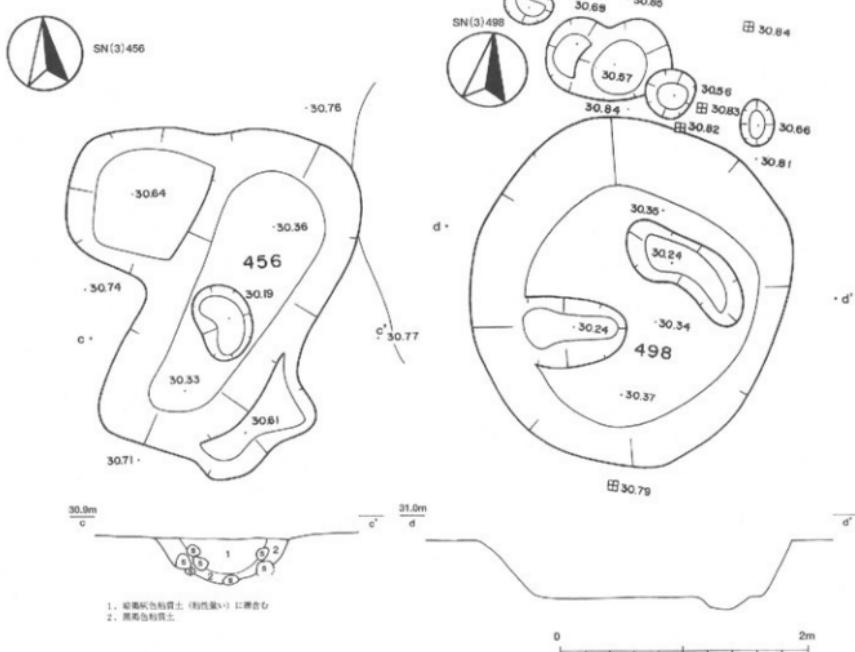
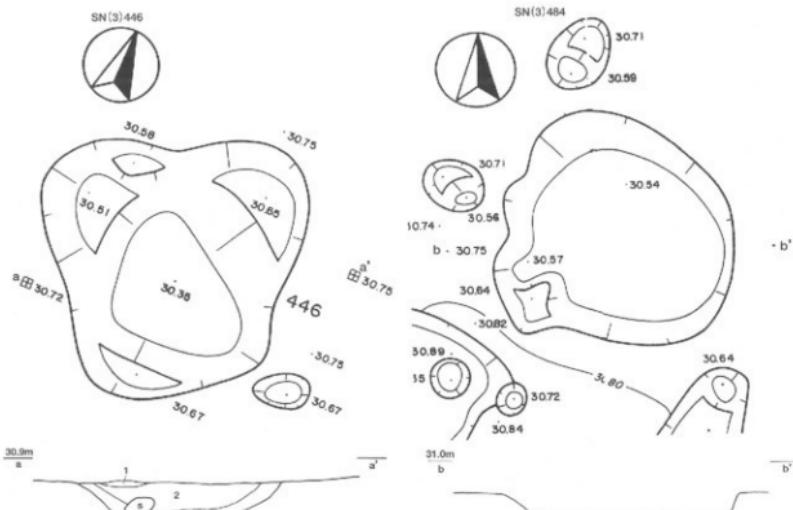


第12図 遺構実測図 土坑SN(3)51・73・239・257 (1/40)

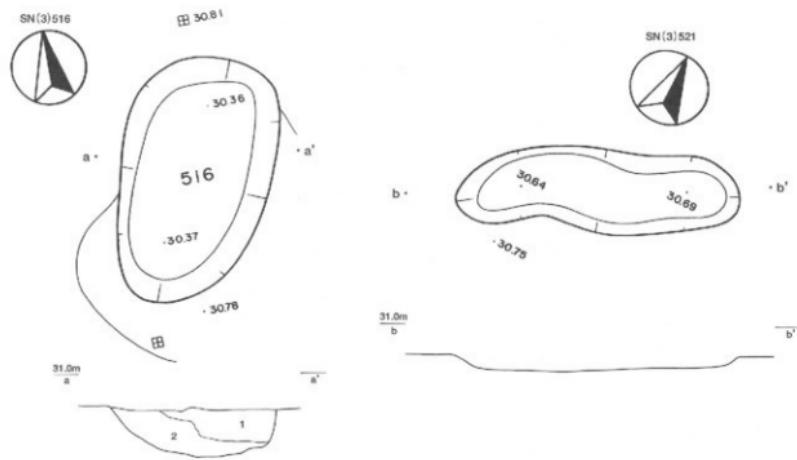
SN(3)401・404



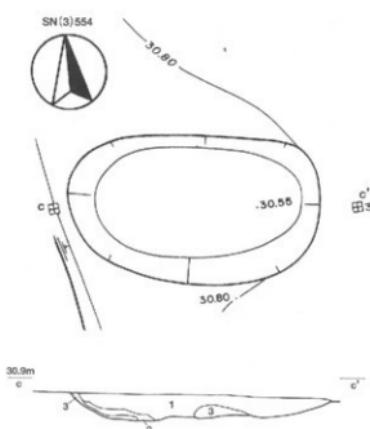
第13図 遺構実測図 土坑SN(3)401・溝SN(3)404 (1/80, 1/40)



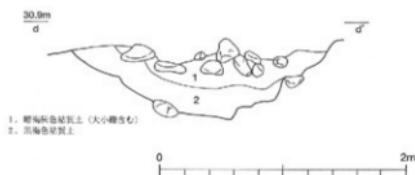
第14図 遺構実測図 土坑446・456・484・498 (1/40)



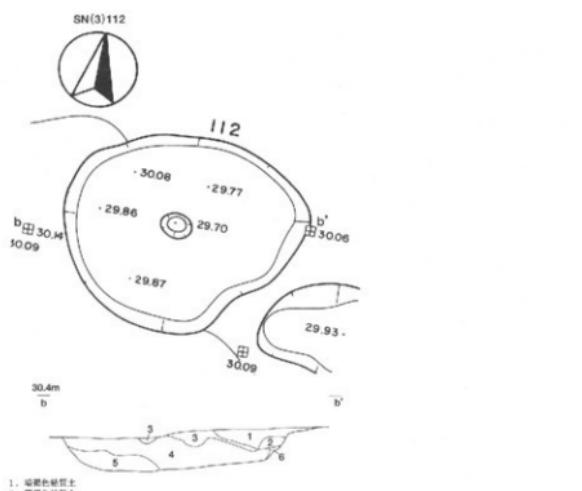
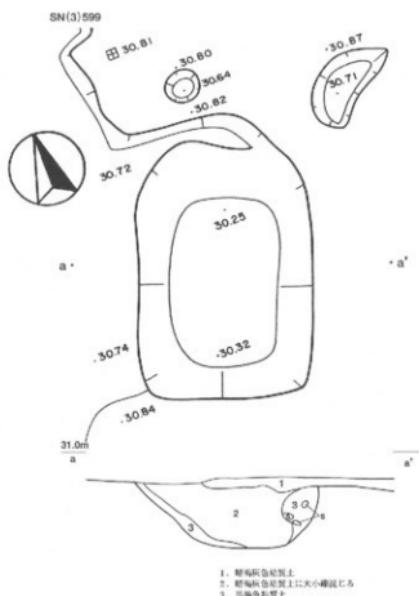
1. 線脚灰褐色質土に埋没せる
2. 黑褐色粘質土に埋没せる



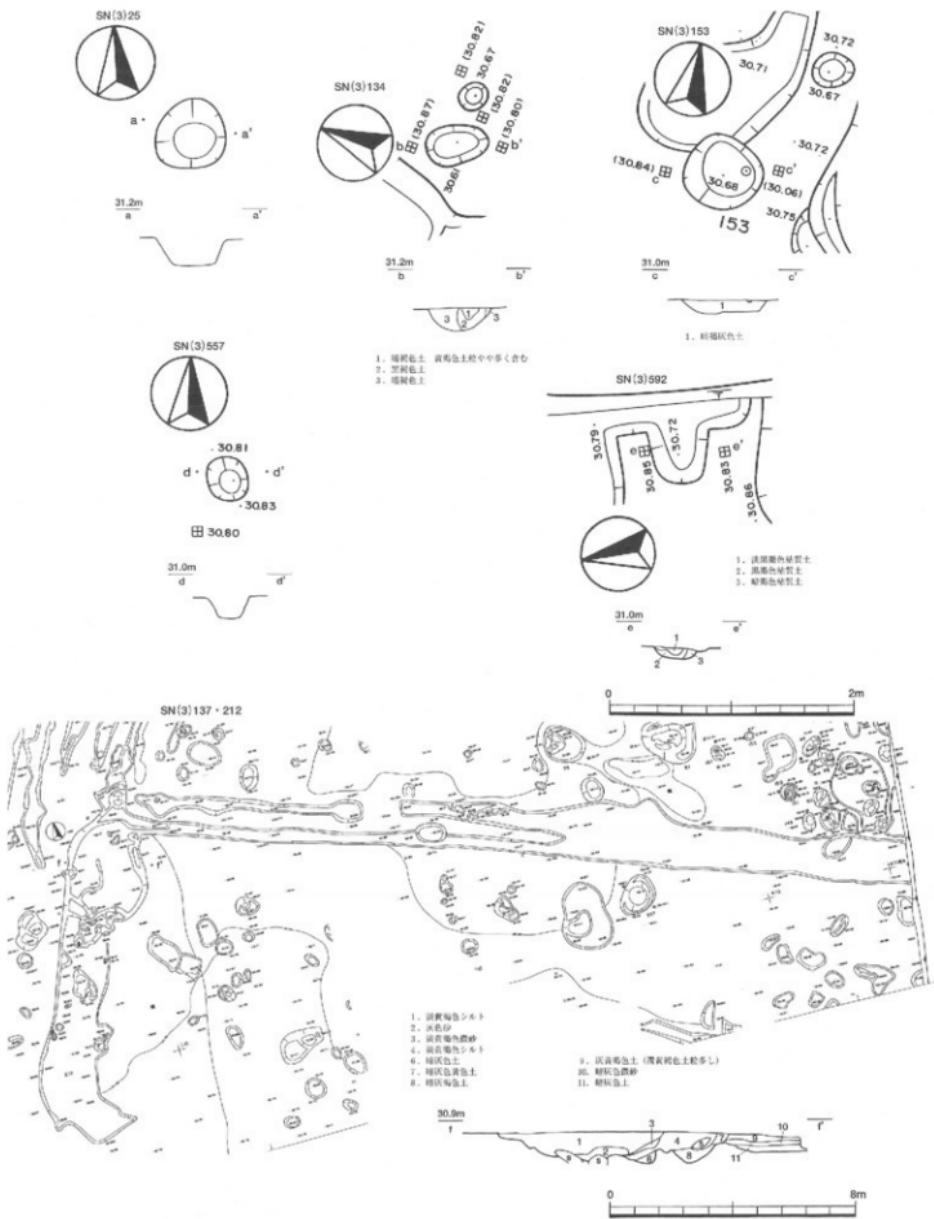
1. 線脚灰褐色質土
2. 黑褐色粘質土
3. 黑褐色粘質土



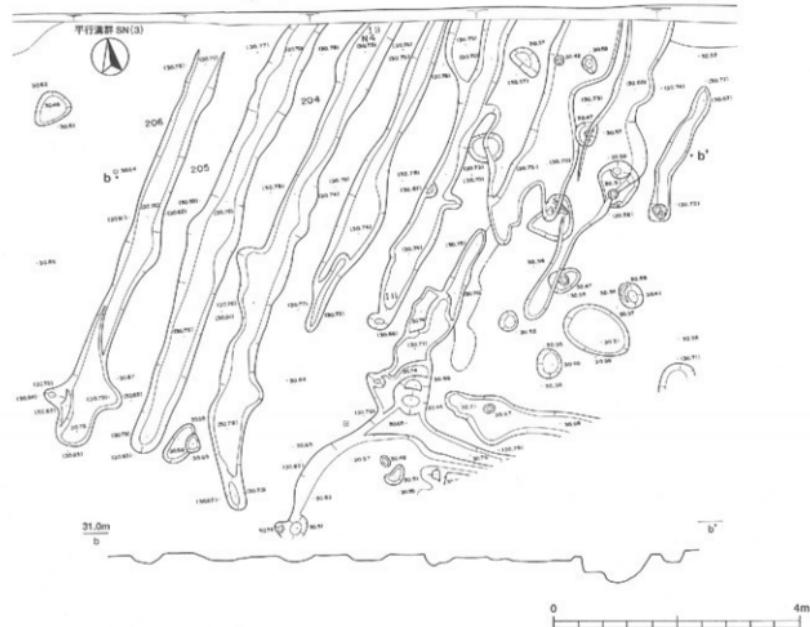
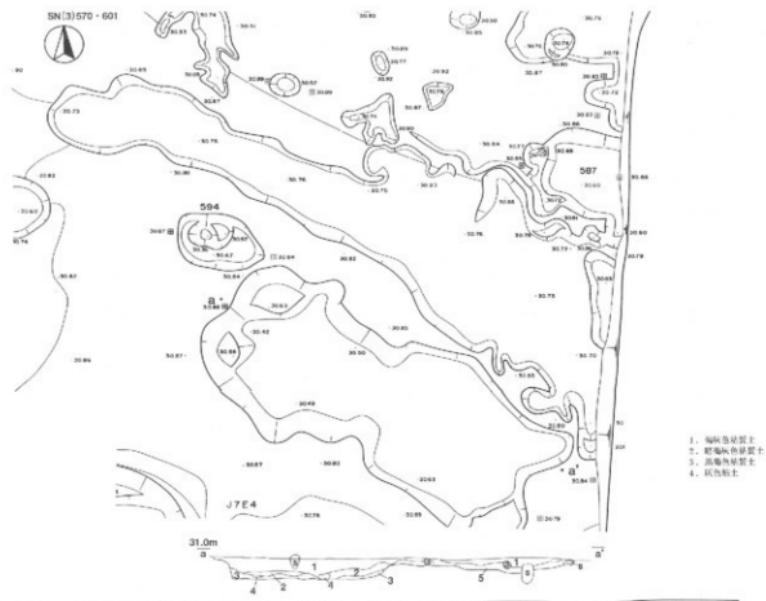
第15図 連構実測図 土坑516・521・554・572 (1/40)



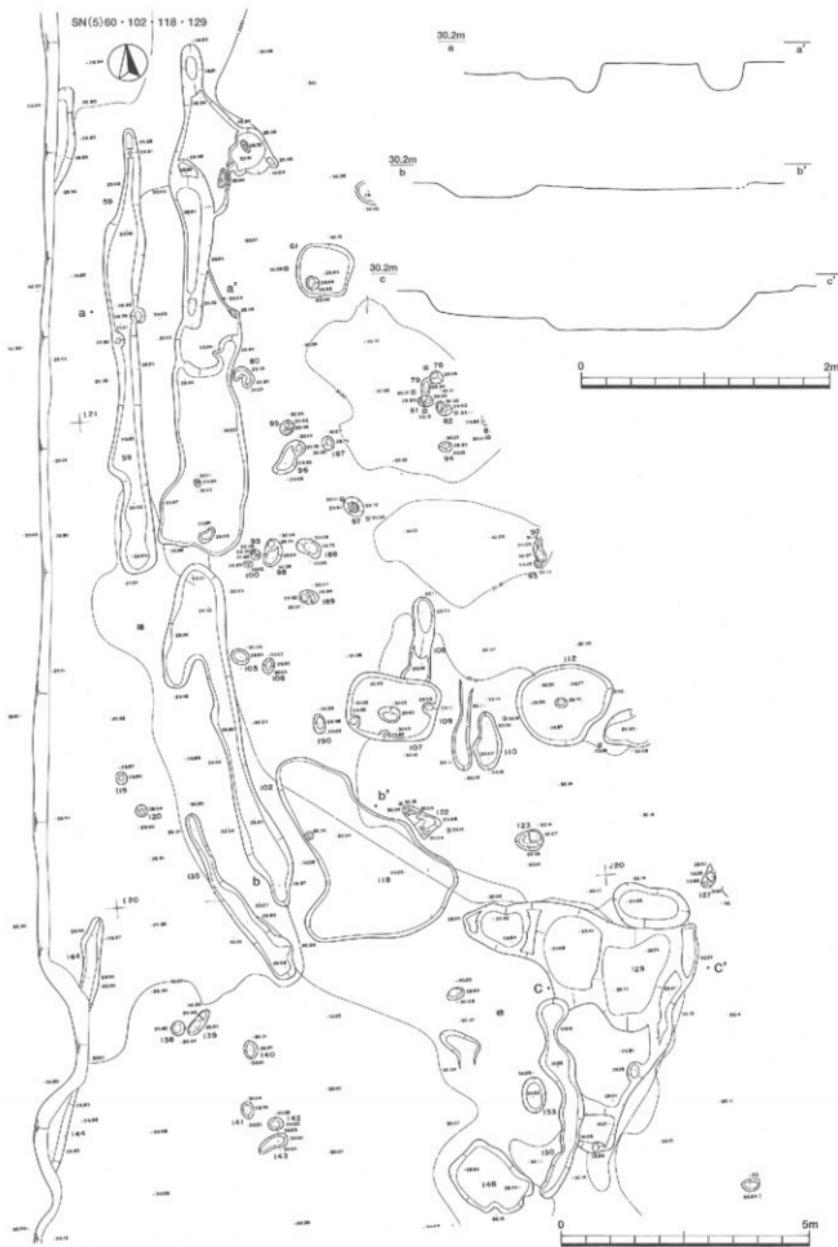
第16図 造構実測図 土坑SN(3)599・SN(3)112 (1/40)



第17図 遺構実測図 ピットSN(3)25・134・153・557・592・溝SN(3)137・212 (1/40,1/160)

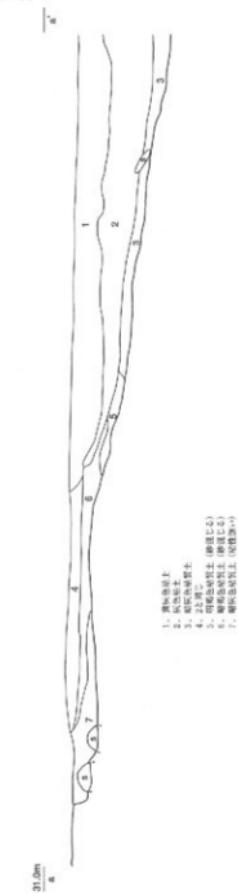


第18図 遺構実測図 土坑SN(3)570・溝SN(3)601・平行溝群SN(3) (1/80)

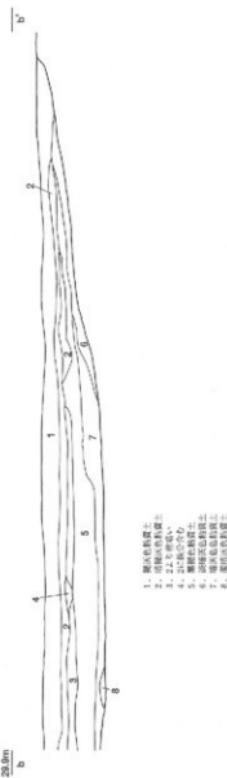


第19回 遺構実測図 満SN(5)60・102・118・129 (1/40, 1/100)

河道 SN(3)

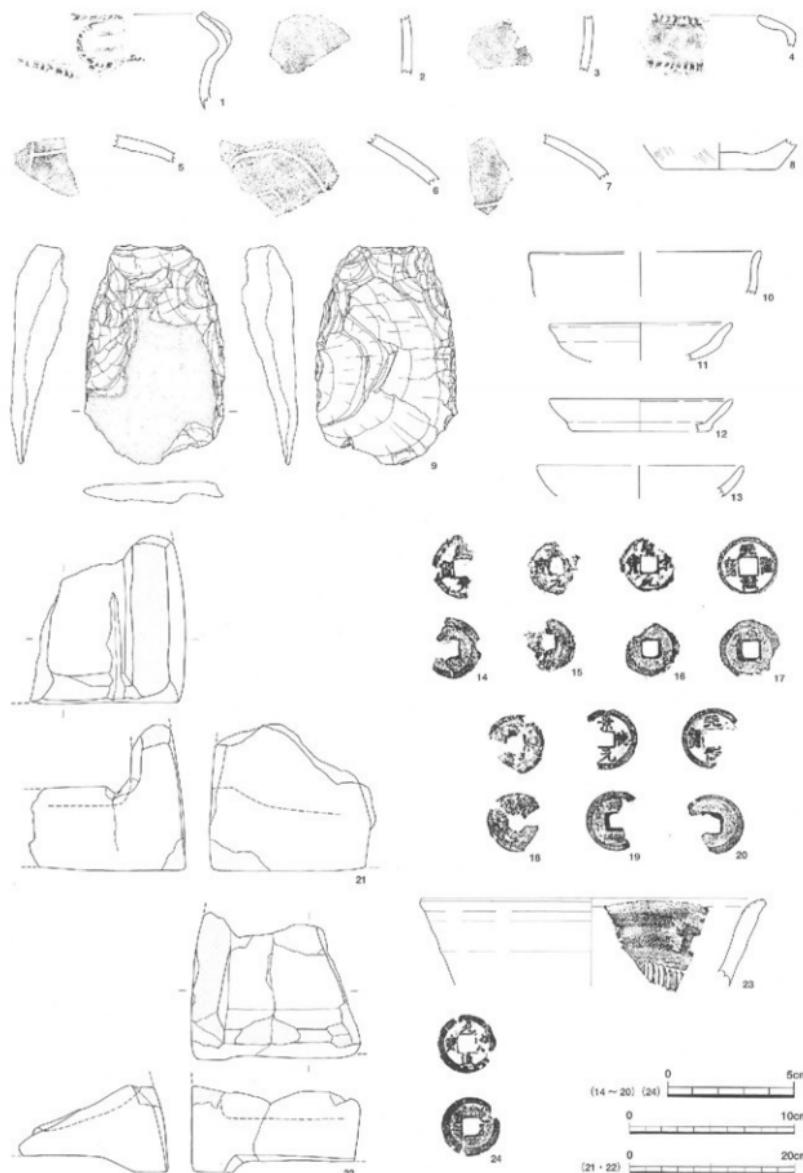


鞍部 SN(3)



0 2m

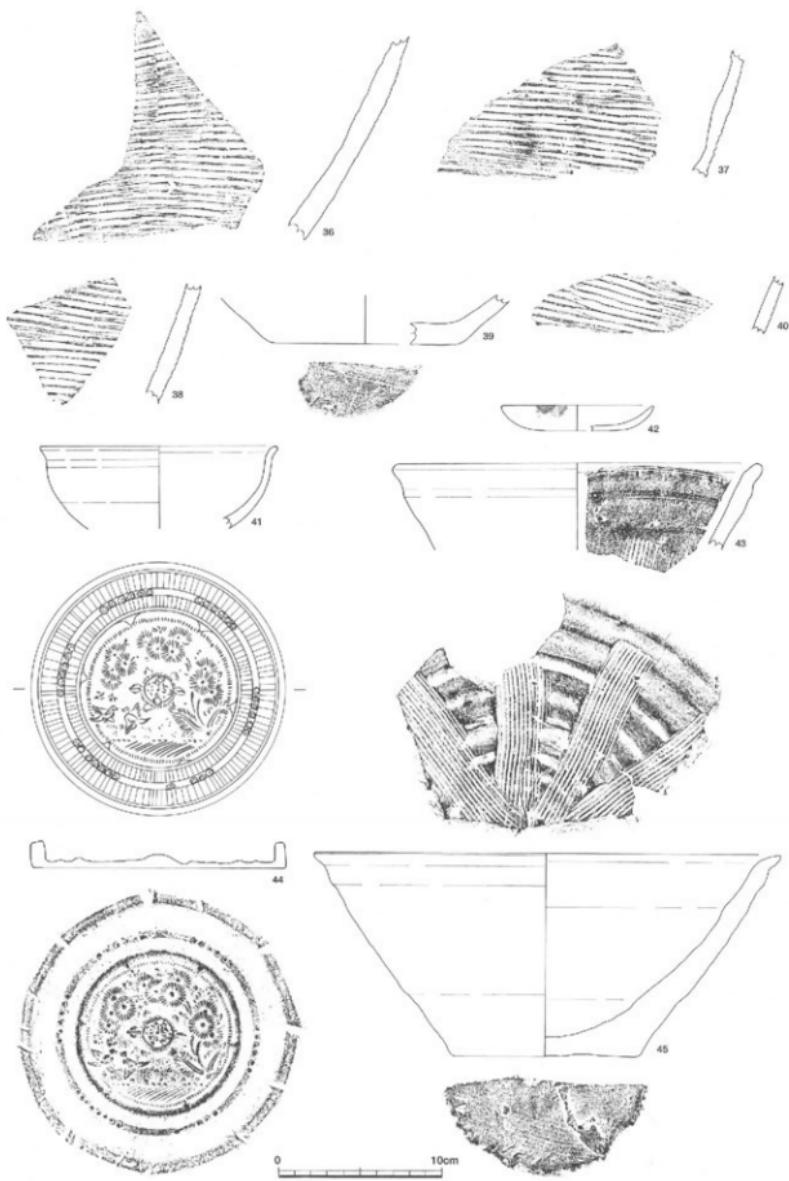
第20図 遺構実測図 河道SN(3)・鞍部SN(3) (1/40)



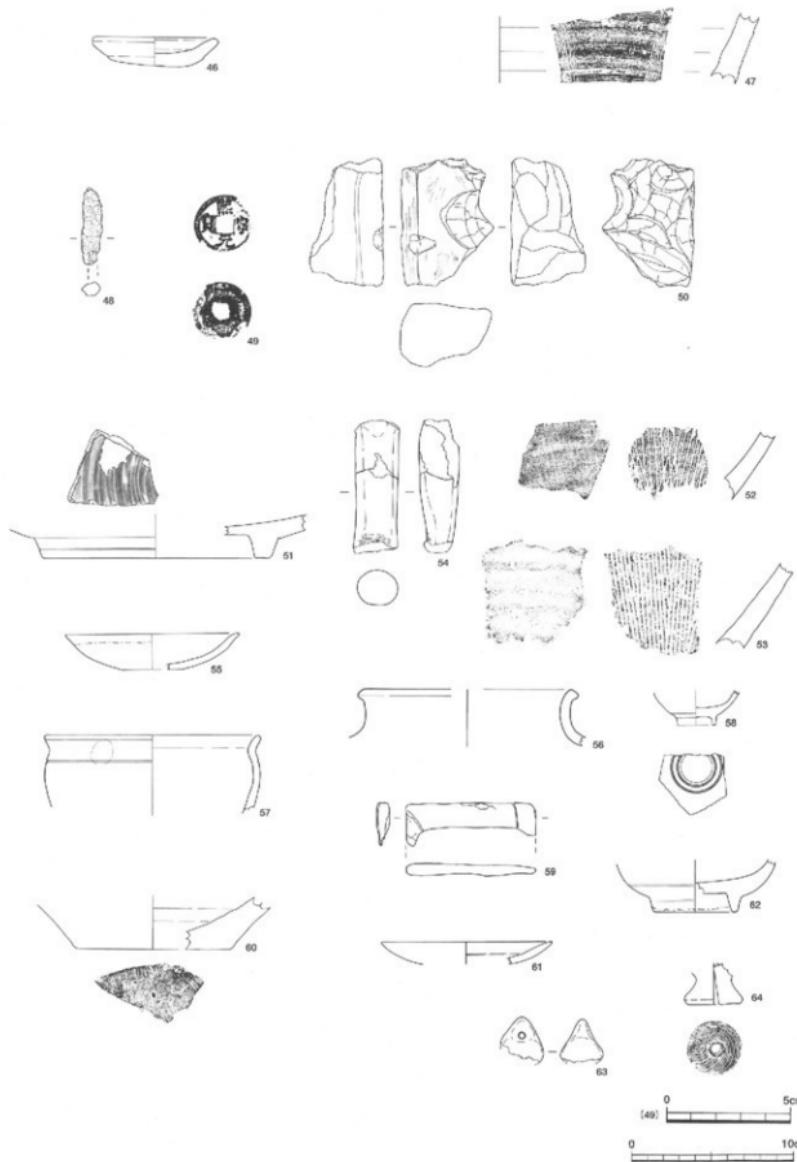
第21図 遺物実測図 (1) SN(3)31(1~8)・SN(3)52(9)・SN(3)32(10)・SN(3)34(11)・
SN(3)239(12~20)・SN(3)484(21・22)・SN(3)445(23・24) (1/2, 1/3, 1/6)



第22図 遺物実測図(2) SN(3)492(25~31)・SN(3)498(32~35) (1/3, 1/6)



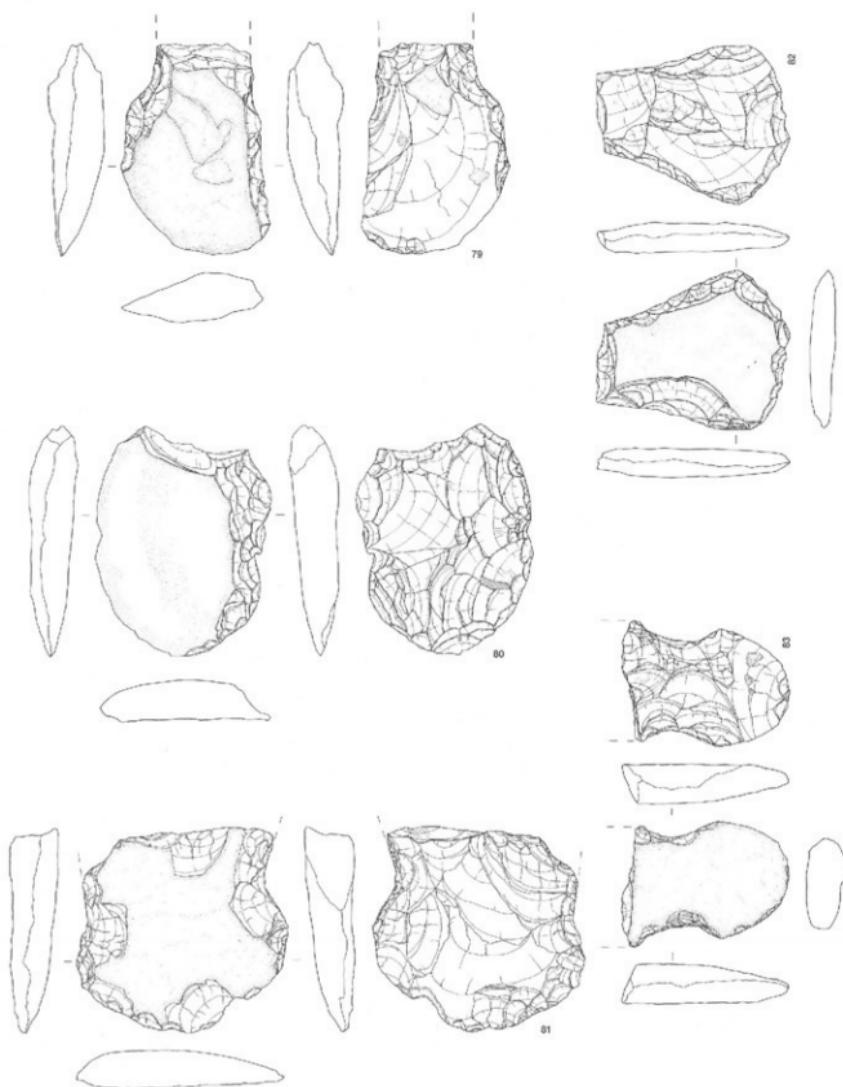
第23図 遺物実測図(3) SN(3)516(36~40)・SN(3)521(41)・SN(3)572(420)・SN(5)112(44)・SN(3)20(45) (1/3)



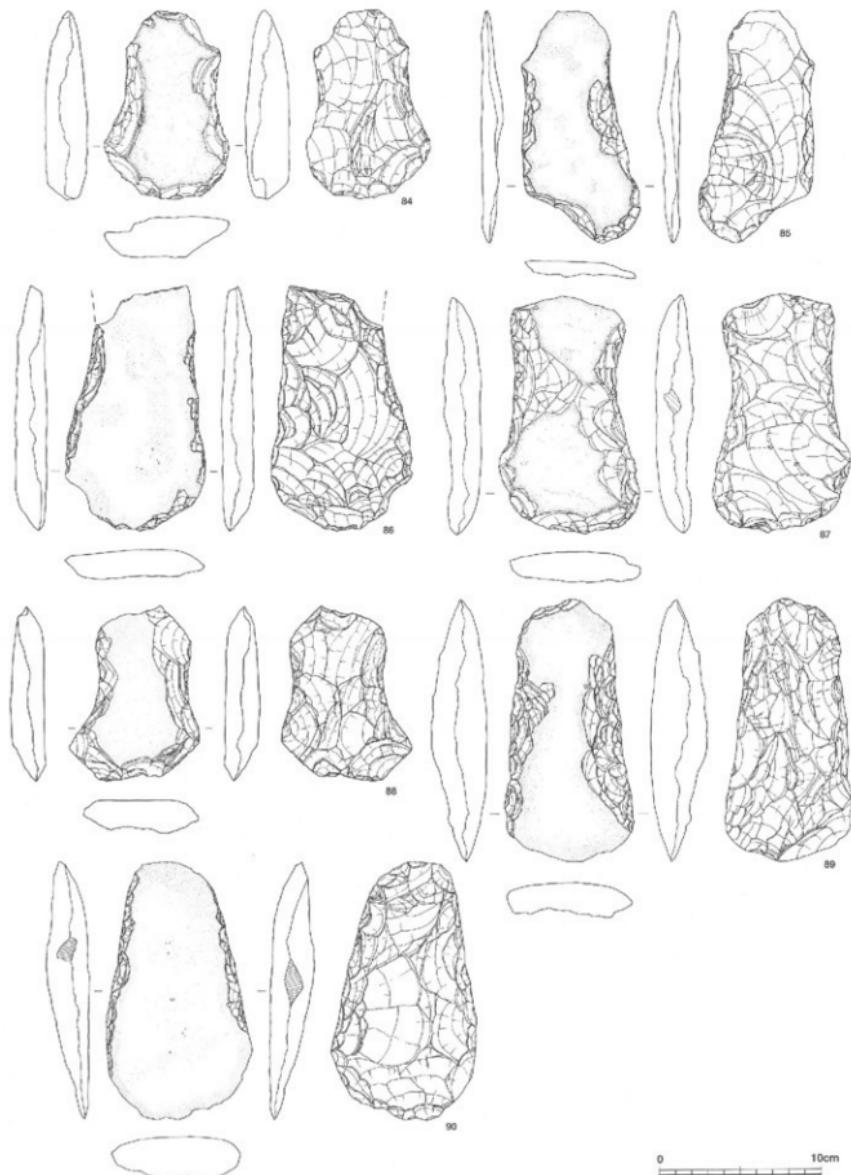
第24図 遺物実測図(4) SN(3)25(46)・SN(3)153(47)・SN(3)134(48)・SN(3)557(49)・SN(3)592(50)・SN(5)29(51)・
SN(5)118(52~54)・SN(3)近世河道(55~58)・SN(3)601(59・60)・SN(5)115(61)・SN(5)60(62~64) (1/2, 1/3)



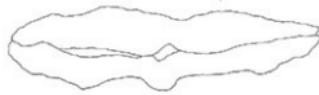
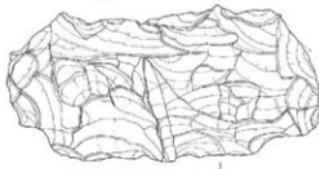
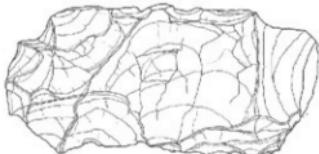
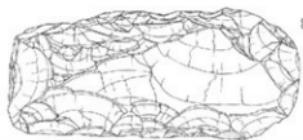
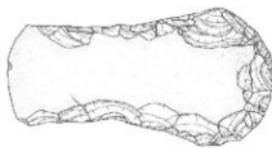
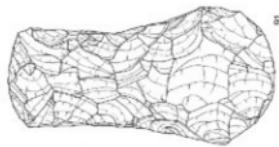
第25図 遺物実測図(5) 包含層(65~78) (1/3)



第26図 遺物実測図(6) 包含層(79~83) (1/3)

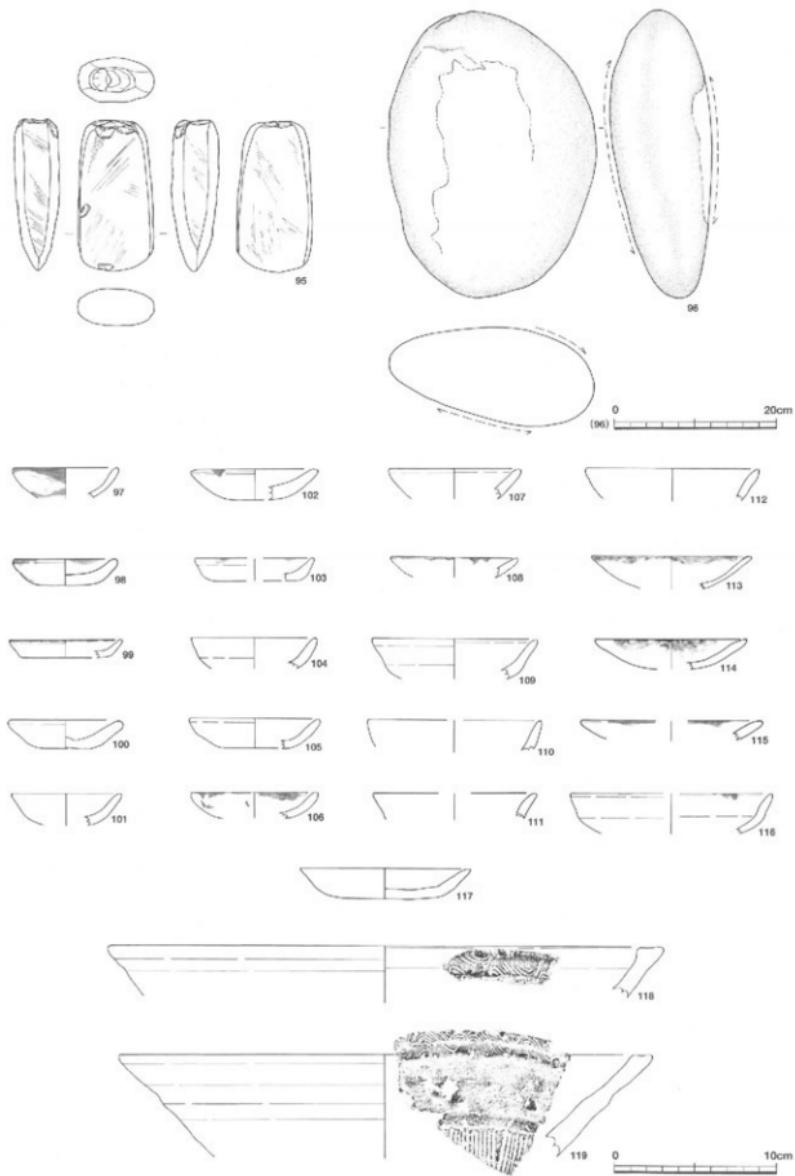


第27図 遺物実測図(7) 包含層(84~90) (1/3)

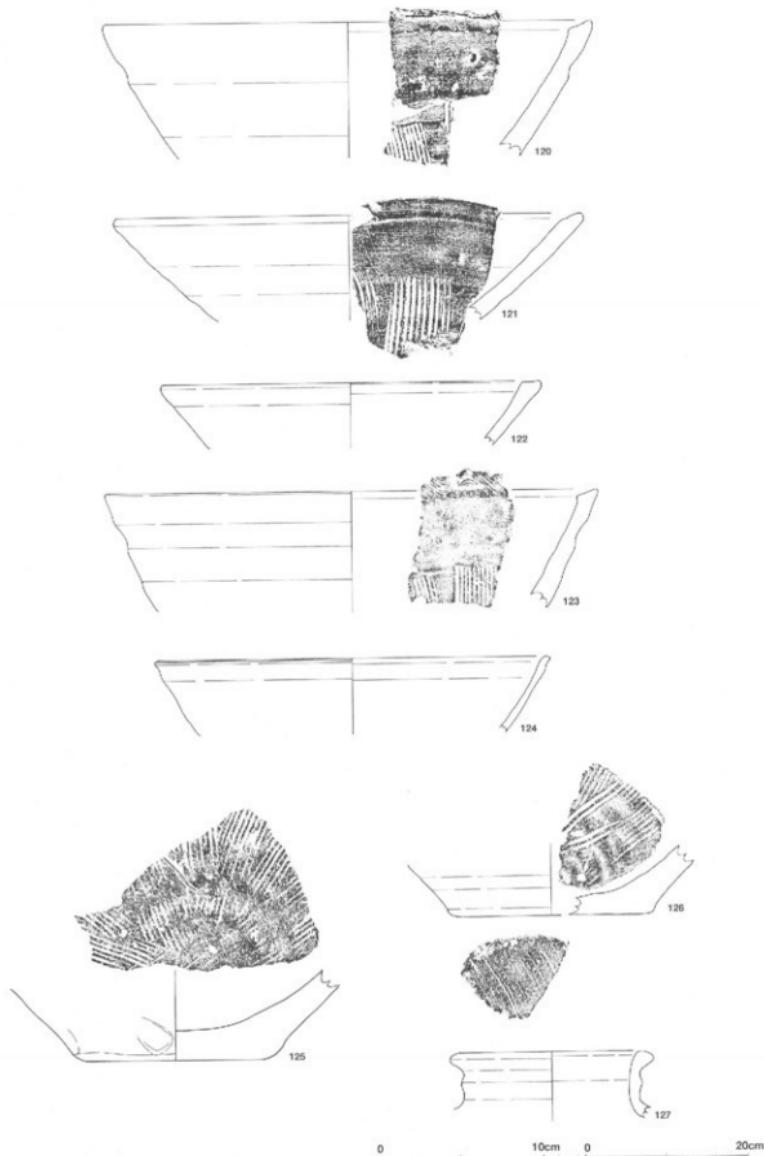


0 10cm

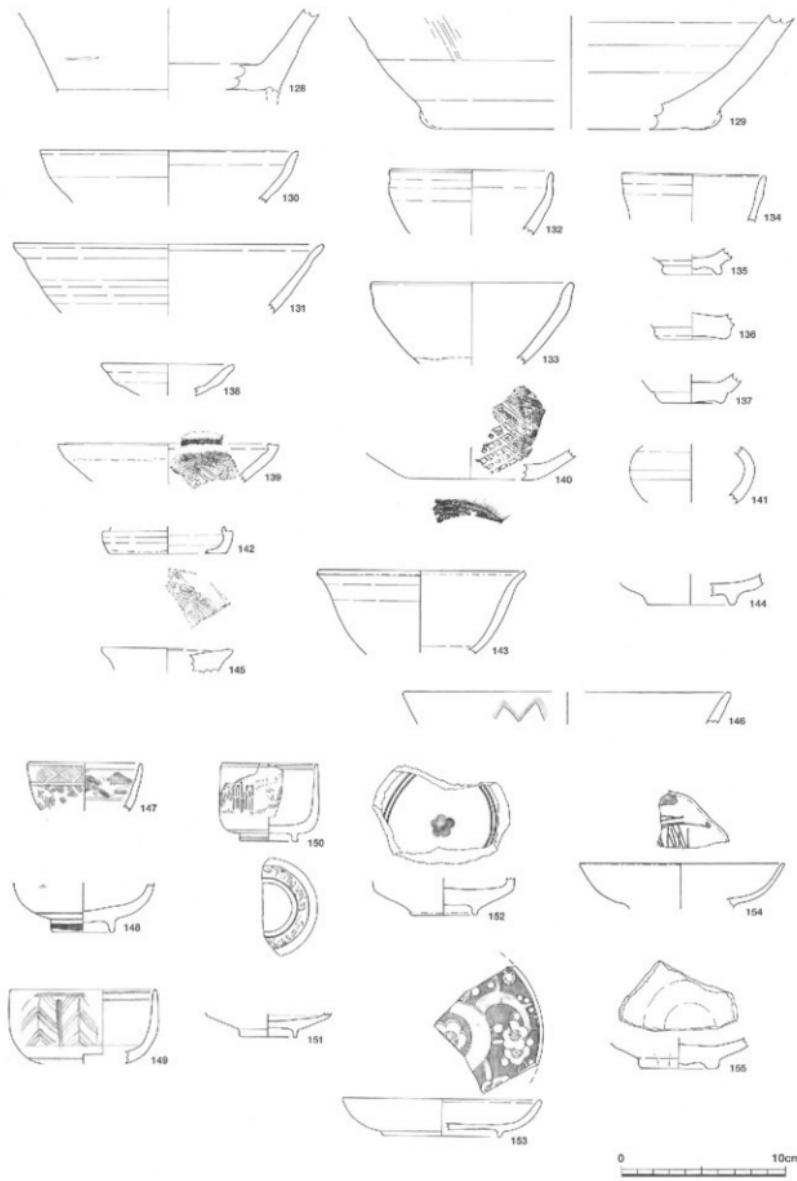
第28図 遺物実測図(8) 包含層(91~94) (1/3)



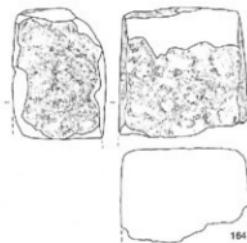
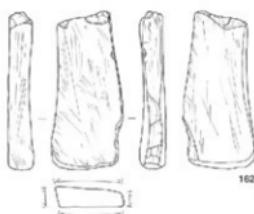
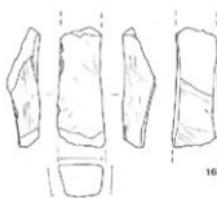
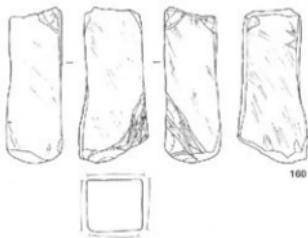
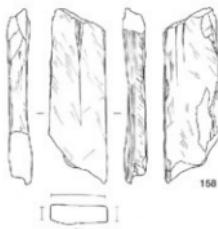
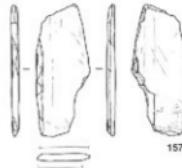
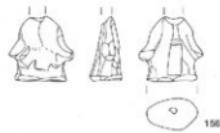
第29図 遺物実測図(9) 包含層(95~119) (1/3, 1/6)



第30図 遺物実測図(10) 包含層(120~127) (1/3, 1/6)



第31図 遺物実測図(11) 包含層(128~155) (1/3)



0 10cm

第32図 遺物実測図(12) 包含層(156~164) (1/3)



A区 完掘(南から)

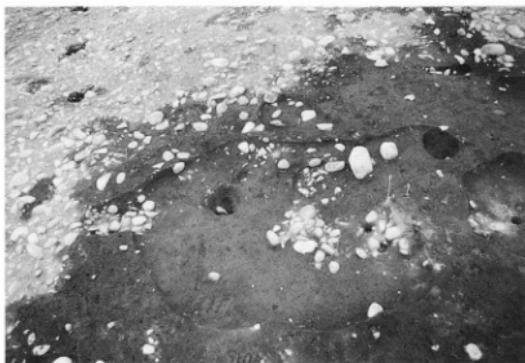


A区 完掘(北から)



C区 完掘(北から)

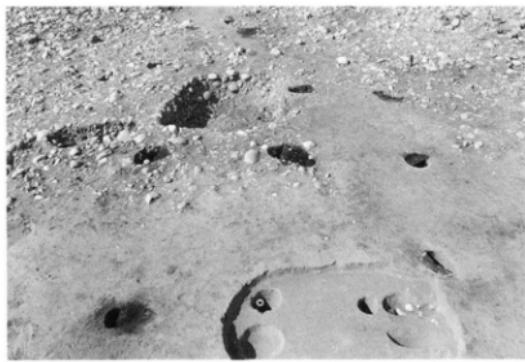




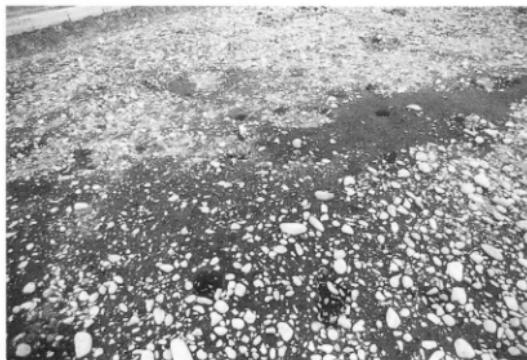
土坑SN(3)①(北から)



豊穴建物SN(3)①(北から)



掘立柱建物SN(3)①(南から)



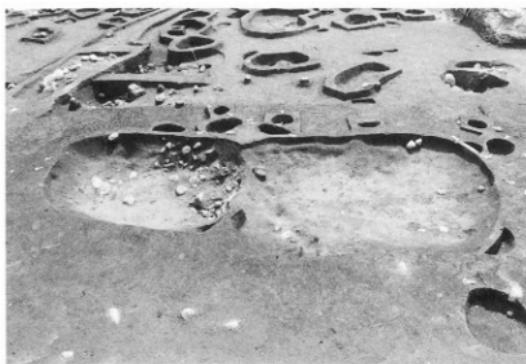
掘立柱建物SN(3)②(北西から)



掘立柱建物SN(3)③(北から)



竪穴状遺構SN(3)35(南東から)



豊穴状遺構SN(3)122・121(西から)



豊穴状遺構SN(3)403(西から)



豊穴状遺構SN(3)492(東から)



豊穴状造構SN(3)600 断面(北から)



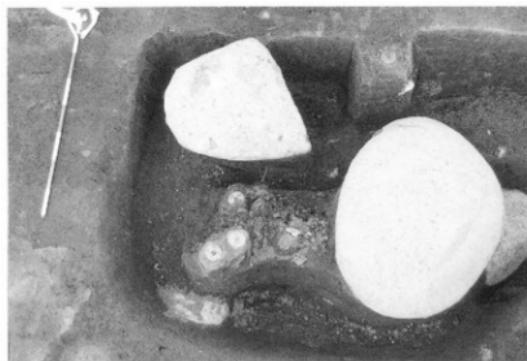
土坑SN(3)34(北から)



土坑SN(3)51(南から)



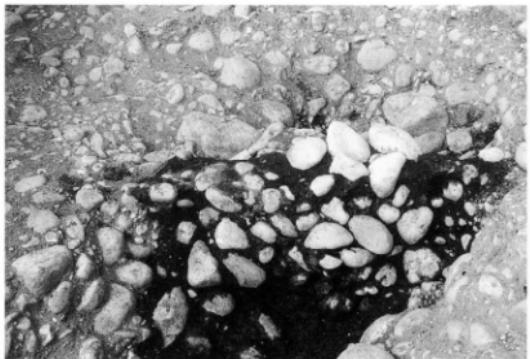
土坑SN(3)73(北から)



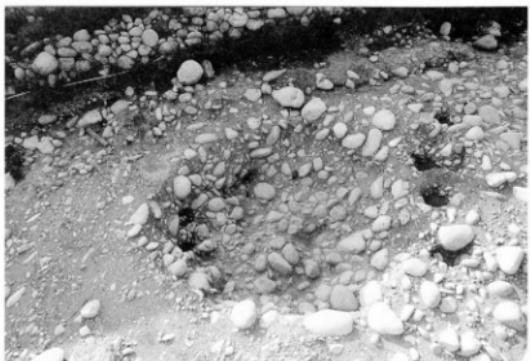
土坑SN(3)239 銀貨出土状況



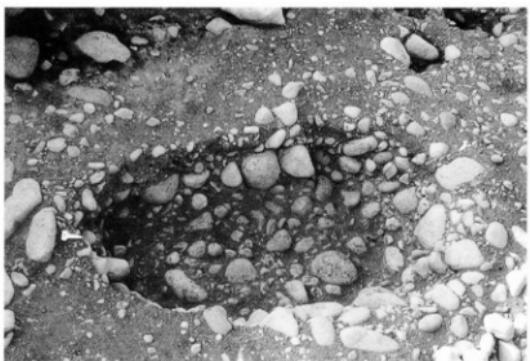
土坑SN(3)401 溝404(西から)



土坑SN(3)456 断面(方角要確認)



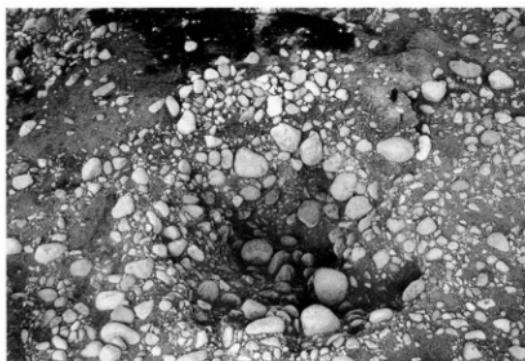
土坑SN(3)498(東から)



土坑SN(3)516(東から)



土坑SN(3)554 断面(北から)



土坑SN(3)572(南から)



土坑SN(3)599 断面(北から)



土坑SN(5)112 和鏡出土状況



土坑SN(3)570(北から)



平行溝群SN(3) 検出(北から)



SN(3)近世溝断面(北から)



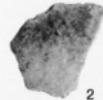
SN(3)鞍部断面(南から)



SN(3)A区 調査風景



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



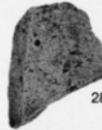
25



26



27



28



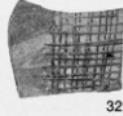
29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



56



57



58



59



60



61



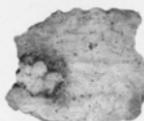
62



63



64



65



66



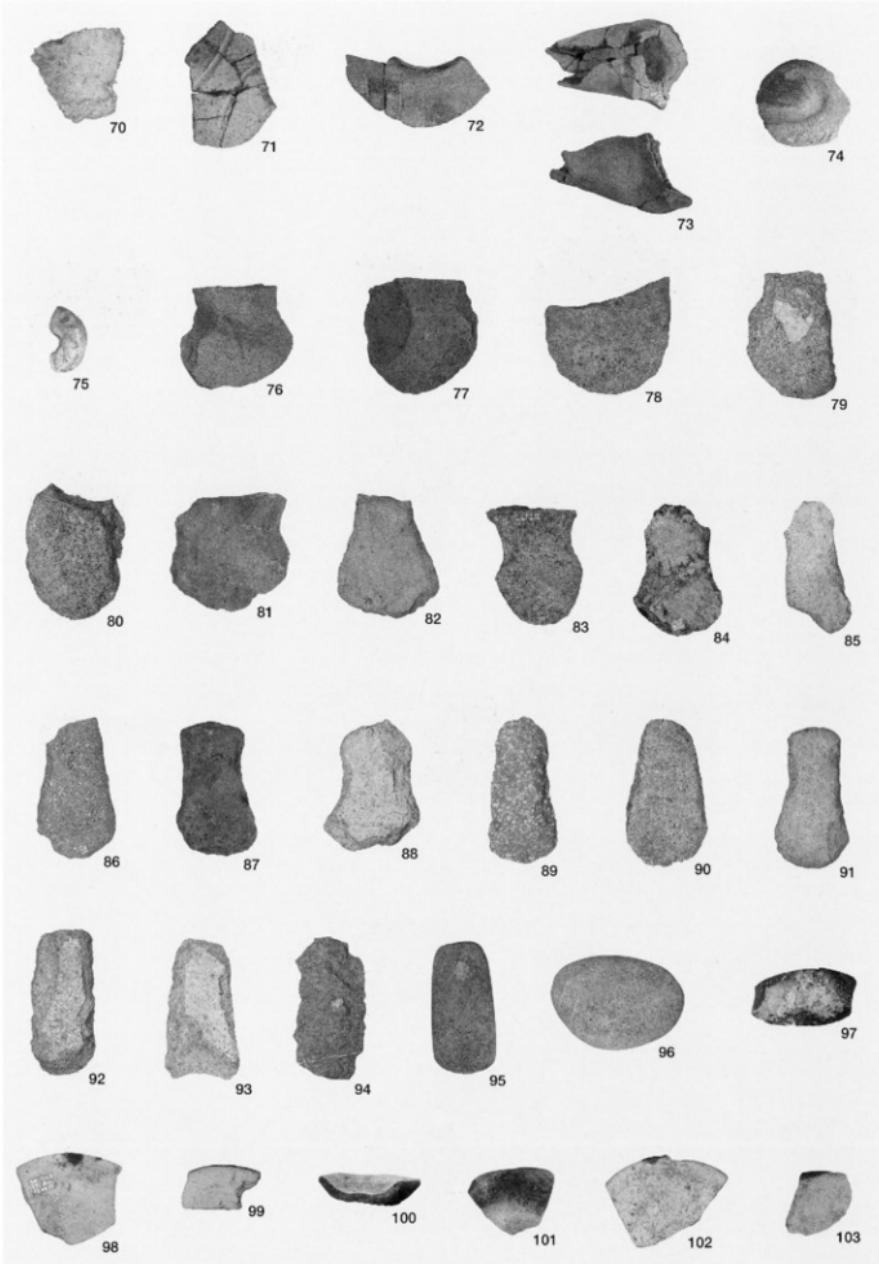
67



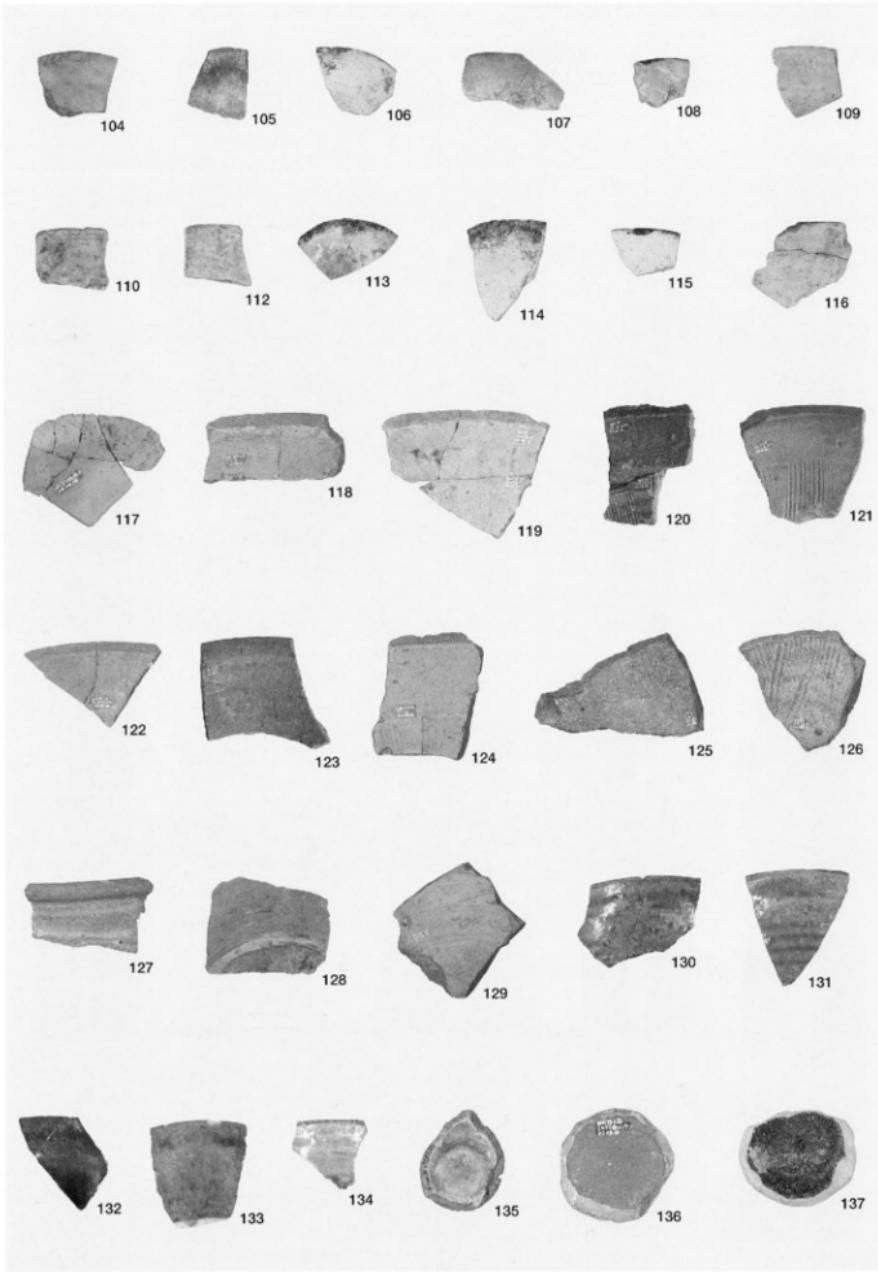
68



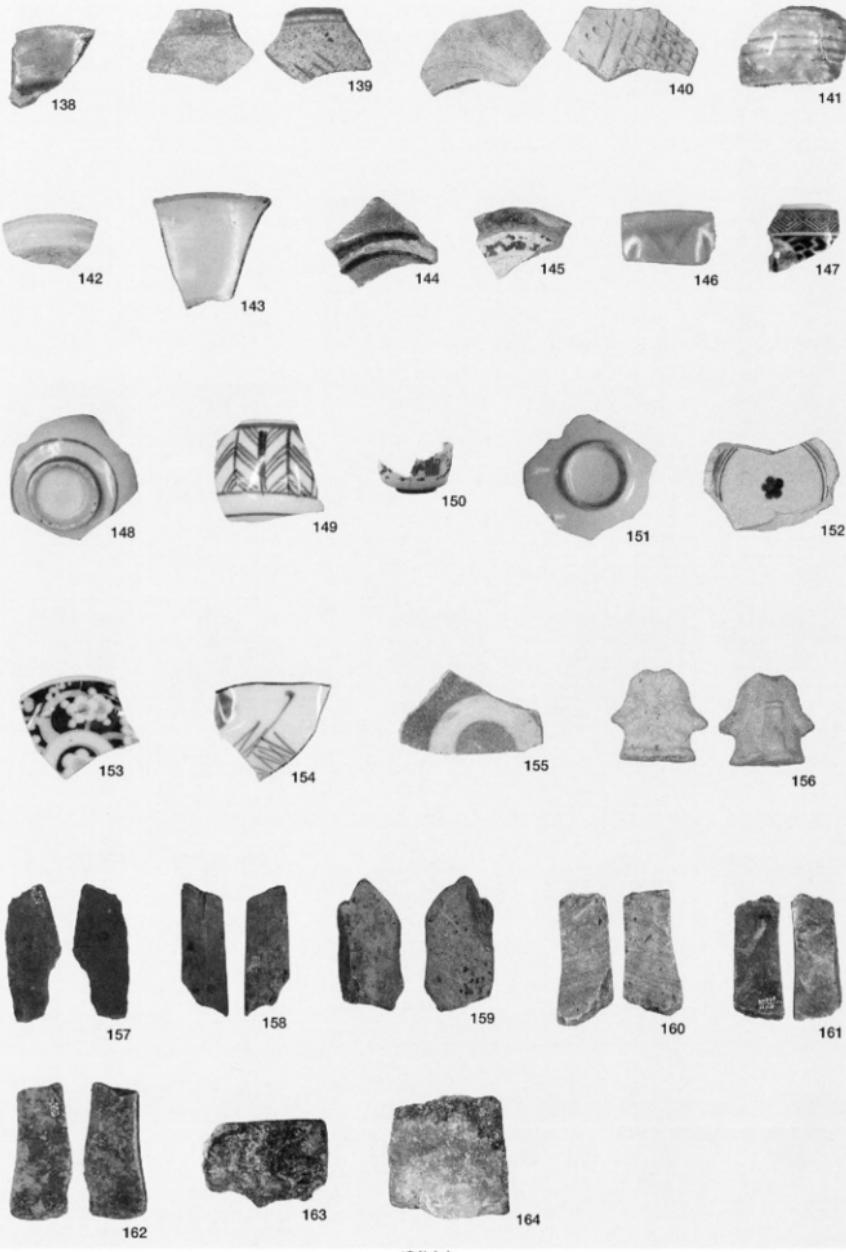
69



遺物(3)



遺物(4)



遺物(5)

報告書抄録

ふりがな	さんのうにしょさいせき							
書名	三納ニショサ遺跡							
副書名	野々市町中南部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次	4							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	水野 勝章							
編集機関	野々市町教育委員会							
所在地	〒921-8510 石川県石川郡野々市町三納18街区1 Tel: 076-227-6122							
発行機関	野々市町中南部土地区画整理組合・野々市町教育委員会							
発行年月日	西暦 2009年3月31日							
所収遺跡名 三納ニショサ遺跡	所在地 野々市町 アサヒノイマキ 字三納	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
		17344		36° 30' 50"	136° 36' 40"	20020408 20021025 20030404 20030709	5,300 1,800	区画整理
		所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
		三納ニショサ遺跡	集落跡	縄文、中世、近世	竪穴建物、掘立柱建物、竪穴状遺構、土坑が密集し、陶磁器や土師器などが出土する。一方で遺跡北側は疊が少なく遺構密度も極めて低く、出土遺物も少なく耕作地として利用されている。	竪穴建物、掘立柱建物、竪穴状遺構、土坑、平行溝群	土器、石器、陶磁器	
要約	縄文時代の短期的活動拠点と中世の集落跡を確認した。遺跡南側は大小疊の広がり、掘立柱建物、竪穴状遺構、土坑が密集し、陶磁器や土師器などが出土する。一方で遺跡北側は疊が少なく遺構密度も極めて低く、出土遺物も少なく耕作地として利用されている。本遺跡は手取川扇状地扇央部の中世集落遺跡として中世のこの地域の土地利用について貴重な資料である。							

野々市町中南部土地区画整理事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書 4

三納ニシヨサ遺跡（第3・5次調査）

発行日 平成21年3月31日
発行者 野々市町教育委員会
〒921-8510
石川県石川郡野々市町三納18街区1
電話 076-227-6122
bunka@town.nonoichi.lg.jp
印 刷 高桑美術印刷（株）

三納ニシヨサ遺跡遺構図

平成18年3月作成

野々市町教育委員会



